

特集

都市自治体の新観光戦略

〜観光庁発足から1年〜

「寄稿1」観光庁の新設と地方都市の観光振興戦略

立命館アジア太平洋大学名誉教授 ● 小方昌勝

10

「寄稿2」拠って立つ文化の再認識 ふるさとの観光施策

遠野市長 ● 本田敏秋

14

「寄稿3」世界ジオパークによる交流人口の拡大

糸魚川市長 ● 米田 徹

17

「寄稿4」四国はドラマチック、来て見て感じて土佐の龍馬伝!

安芸市長 ● 松本憲治

20

とっておき! 美しい都市の景観

高梁市(岡山県)「吹屋のまち並み」

3

食から考える カ・ラ・ダいきいきライフ(服部幸應 監修)

緑と白が目にも鮮やか。熱々のシチューで免疫力アップ たっぷりプロツクリーのクリームシチュー

4

市町村合併への歩みと未来展望

◆「民力」を生かしたまちづくりで、住民に自信と誇りを 南アルプス市長 ● 今沢忠文

36

◆合併した効果は簡単には実感できない 瀬戸内市長 ● 武久顕也

◆自然と文化と産業が調和するまち 国東市長 ● 野田侃生

36

動き

世界の動き / 鳩山民主党政権の

対中傾斜とその危うさ

時事総研客員研究員 ● 金重 紘

24

経済の動き / 政府債務のリスク

東京大学大学院教授 ● 伊藤元重

26

自治の動き / 地域主権戦略会議動き出す

ジャーナリスト ● 松本克夫

28

マイ・プライベート・タイム

青年会議所との出会い

大東市長 ● 岡本日出士

42

わが市を語る

◆阿武隈の自然にはぐくまれた

歴史と食のまちのこれから

角田市長 ● 大友喜助

44

◆富士山と共に歩む 自立と創造のまち

富士吉田市長 ● 堀内 茂

◆戦国武将が駆け抜けた地・江南 今、主役は市民へ

江南市長 ● 堀 一元

◆観光に、産業に、自然の恵みが生きるまち

宿毛市長 ● 中西清一

◆炭坑節のふるさと 田川

田川市長 ● 伊藤信勝

44

歴史に見る リーダーと、それを支えた人たち

外交交渉中に大地震 ― 川路聖謨(二) ―

作家 ● 童門冬一

54

編集後記

56

市政ルポ

西脇市(兵庫県)
ユニークな産業構造・地域資源を積極活用
「日本のへそ」都市が進める新たな産業振興策
西脇市長 ● 來住壽一



人

医療には「やさしさ」が必要なんです
諏訪中央病院名誉院長 ● 鎌田 實さん



表紙イラスト: 山本 陽
本文イラスト: 細田雅亮

特集

都市自治体の新観光戦略 ～観光庁発足から1年～

平成19年1月に観光立国推進基本法が施行され、平成20年10月1日には観光庁が発足し、さらに国土交通省が最も注力していきたい分野のひとつとして観光を挙げるなど、いま、政府、省庁、地方自治体は、観光政策に力を注いでいます。今回の特集では、今後の観光立国に向けてのポイント、都市自治体の観光施策、観光資源の活用などについて事例も織りまぜて紹介します。

寄稿 1

観光庁の新設と地方都市の観光振興戦略

立命館アジア太平洋大学名誉教授 小方昌勝

寄稿 2

掘って立つ文化の再認識 ふるさとの観光施策

遠野市長 本田敏秋

寄稿 3

世界ジオパークによる交流人口の拡大

糸魚川市長 米田 徹

寄稿 4

四国はドラマチック、 来て見て感じて土佐の龍馬伝！

安芸市長 松本憲治

観光庁の新設と地方都市の観光振興戦略

立命館アジア太平洋大学名誉教授

小方昌勝



昨年10月で、わが国初めての「観光庁」が1周年を迎えた。わが国の観光(ツーリズム)に対する国と経済界の従来の姿勢は、「観光」は個人の娯楽であり、国や経済界が真剣に取り組むものではないとの認識が中心であり、諸外国と比して、観光が産業政策の中核として考えられることがなかった。しかしながら、昨今の経済・社会情勢の変化を受けて、観光が国の政策として重要かつ不可欠であると考えられるようになり、経済界を巻き込んで、わが国期待の「リーディング産業」として注目されるようになってきた。

観光庁以前のわが国の観光政策と地方都市との関係

わが国の観光政策が本格的に始動したのは、第2次世界大戦後の経済復興がまだ十分とはいえない約半世紀前の昭和38年に、諸外国にもあまり例を見ない「観光基本法」が制定されたときからである。この基本法に盛り込まれた理念は、その後のわが国の観光

政策のバイブルとして反映されており、「海外旅行倍増計画」「テンミリオン計画」(昭和62年)、「コンベンション法」(平成6年)、「外客誘致法」(平成9年)、「新ウェルカムプラン21」(平成12年)、「観光立国行動計画」(平成15年)、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(平成15年)などが、国際観光の分野を中心に策定・実施されてきた。しかし、地方自治体の内発的な努力による「地域観光の再生・活性化」と国の施策との有効なコラボレーションを明確に指摘できるものは少なかった。

観光庁発足と都市自治体の観光振興策への影響

このように、約半世紀にわたってわが国の観光政策のバックボーンとして受け継がれてきた「観光基本法」であったが、新たな観光戦略への期待の高まりに加え、人口減少、少子高齢化、さらに観光の社会的、文化的、環境的、教育的効果、経済的効果へ

の期待の高まりを受けて、旧観光基本法を時代に合ったものに改正した「観光立国推進基本法」(平成19年)が施行され、わが国の観光政策は大転換することになった。
なお、「観光立国推進基本法」では、その改定に際し、地方公共団体の責務として地域の特性を生かした施策の作成と実施および広域的な連携協力、住民の責務として観光立国の重要性の理解および魅力ある観光地の形成への積極的な役割分担を明記している。これにより、従来の枠を越えて、国の観光政策だけでなく地方都市も観光立国の実現に参画し、重要な役割を担うことになった。

「観光庁」の発足までの、わが国観光担当部局は、昭和30年の「観光局」、昭和59年の「国際運輸・観光局」が筆頭で、後は観光部、運輸政策局内の課レベルに止まっておられ、諸外国の観光担当部局と比べると、機能・人員・予算共に極めて弱いものであった。「観光庁」の設置により名称と権限は一步前進し

たものの、他国の観光担当部局と比べると、まだ機能・人員・予算の面で追いついていないようだ。現在「観光庁」によって展開されている地方自治体と関係が深いものとしては、「観光圏整備事業補助制度」と「観光ルネサ

ス補助制度」が挙げられるが、そのほかの主な事業は「観光庁」が設置以前にも促進の努力がなされていたものがほとんどである。

地方都市における今後の観光戦略

地方都市において観光振興を図るためには、「観光(ツーリズム)」とは何か

を、まず確認しておく必要がある。欧州共同体の

正式分類によれば、観光は「休暇旅行」(holiday)の

枠組みを越えて、①ビジネス、大型会議、展示会、

見本市、集会、②友人・家族訪問やクラブ活動などの

社会行動、③スポーツやエンターテインメント

(スポーツやコンサートなど)のイベント参加)、④郊

外のモールを含むショッピング、⑤健康、治療、

遊び、⑥教育(教育コースや自己啓発)なども含む

広範な分野を対象とする産業である。

少子高齢化で成熟した地方社会では、今、観光

振興Ⅱ交流人口の拡大および需要の創出による地

域の活性化が必要である。これまでの公共投資と工場誘致を背景とした雇用と所得の安定はもはや困難であり、新しい柱を見つけ出すことが急務となってきた。ほかの国・地域から来訪者を迎える観光は、急速に進む人口減少や高齢化によって活気を失いつつある地域にとっては強い支えとなろう。

●観光立国推進基本法の目的と地方都市などにおける関与の方向

しばらくぶりの画期的国策として制定された「観光立国推進基本法」と関連諸施策があつたとしても、国の努力だけでは目標の

達成は困難である。地方都市などの「観光立市」への取り組みの成果が「観光立国」の実現

につながる必要がある。そのためは、観光振興の知識や経験の少ない地方自治体に対するハード/ソフト分野の多方面

にわたる、具体的な助力と相談、応援(法律上の支援だけでなく)が不可欠であろう。一

方、地方自治体などにおいては、人口減少と高齢化および地域社会の衰退への危機感

の高まりを受けて、地方の生き残りをかけた観光振興に目が向けられ始めている。地

方サイドから見れば、観光振興の利点は数え切れないほどある。例えば、人口減少と

高齢化が進めば、その地方の衰退につながるが、地域を支える産業はその地の自然・文

化・伝統などが活用できる「観光」が最適であり、観光は、ほかの産業のようにその地

から逃避することはなく、観光客の増加は

表1 運輸省・国土交通省における観光行政の変遷

昭和24年(1949年)6月	大臣官房に観光部を設置。
昭和30年(1955年)8月	大臣官房観光部を廃止し、観光局を設置。
昭和43年(1968年)6月	観光局を廃止し、大臣官房に観光部を設置。
昭和59年(1984年)7月	国際運輸・観光局を設置し、観光部を大臣官房から同局に移管。
平成3年(1991年)7月	国際運輸・観光局を廃止し、同局に置かれていた観光部は運輸政策局に移管。
平成13年(2001年)1月	国土交通省の発足に伴い、運輸省の運輸政策局と建設省の建設経済局を総合政策局に統合。観光部は総合政策局に所属。
平成16年(2004年)7月	大臣官房に総合観光政策審議官(局長級)を設置し、総合政策局の観光部は廃止。
平成20年(2008年)10月	観光庁が発足。



環境保護を念頭においた観光がますます重要になる(写真は尾瀬ヶ原湿原)

観光消費を増やすと同時に、住民の消費をも活性化させる、などである。

●観光振興と地域の活性化への対応

観光による地域の活性化を進めるには、次の基本的背景を理解しておくことが必要である。

(1) 観光は交通、宿泊、旅行業、飲食、ホスピタリティサービスなどの諸産業を包含する総合産業であり、「世界最大の産業」ともいわれている。

(2) 観光は人の行動や社会生活の各分野に密接にかかわる活動である。従って、その対象分野は無尽蔵である。例…スポーツ

の導入(ハイシーズンとオフシーズンの間に第3の「ショルダー・シーズン」[「肩」の意]を設定し、空席・空室活用による割安料金を可能にする)、②近隣観光地との広域連携による複数泊化の実現(連続泊の割引料金などの導入)、③「地産地消」推進を核とする観光推進(地域の特産品や産物を地域内で消費することで来訪客を満足させる流通システムを作り上げ、シーズンを問わない誘致を図る)などがある。

(3) 観光産業界で、近年注目されてきている、新しく多様な観光形態を積極的に受け入れ、対応を急ぐべきである。例…コミュニティ・ツーリズム(地域社会に根差した観光)、メディカル・ツーリズム(医療観光)、グルメ・ツーリズム(「食」観光)、ライフスタイル・ツーリズム(訪問地の日常生活を楽しむ)など

観光振興に際して 国と地方自治体に期待されること

最後に、観光立国推進の目標を達成する上で、国および地方自治体による早急な取り組みが期待されることは、以下のとおりである。

(1) 交流人口の拡大による地域の活性化がうたわれてから久しいが、依然として大都市への集中が見られる。地方都市の魅力の発掘と旅行者の誘導のための施策が急が

る。観光、グルメ観光、シニア観光、福祉観光など。

(3) 観光という総合産業は、原則として社会的・文化的・環境的・教育的効果を創出できるものであり、これらが満足されれば、来訪者が増え、「経済効果」も生まれる。

■加えて、観光振興の視点から地域の再生と活性化を効果的に実現するには、「人材」「ゆかり」「広域連携」の3つの対応が急がれる。

(1) 「人材」については、従来は地域における対応が「ハードウェア」と「ソフトウェア」が中心であり、地域振興の中核となる人材(「人財」)はソフトウェアの一部として重要視されてこなかった。そのため、地域振興の実務の現場において多くの失敗例を生み出してきた。今後は、ハードウェアもソフトウェアも自由自在に使いこなせる「人材」の育成・確保を最優先に考えるべきである。

(2) 「ゆかり」については、自分が住む地域と他所との歴史的・文化的・社会的なつながりの活用である。特に、つながりと近い関係にある「ゆかり」は重要なテーマとなる。地域間の特別なつながりという点で他の追随を許さない「ワン・アンド・オンリー」(唯一無二)のゆかりの素材を発掘・情報化し、貴重な観光資源として発信することである。

(3) 「広域連携」については、近年日本各地で大規模かつ広範囲に実施された市町村合併後に地域経営の将来に対する方向付けがしっかりと定まらない中、広域連携は最

れる。

(2) 今、欧米およびアジア太平洋地域において、いわゆる観光弱者(身障者、高齢者、低所得者など)を対象とする「ツーリズム・フォー・オール」(すべての人が平等に楽しめる観光)運動が進められているが、制度が出来上がったとしてもまだまだ時間がかかるのが現状である。とりわけ、バリアフリーの分野では施設や設備がなくても手助けが

も緊急を要する課題であろう。現在、旅行者の多くは複数の目的地を訪れる傾向にあり、そのニーズに応えるには、今までのように国や都市などが個々に取り組むのでは限界がある。官民それぞれの立場から、その地方に広域的で一体となった魅力ある観光目的地となるように総合的、計画的、戦略的な活動を推進する必要がある。

●地方都市の観光振興に向けた具体的な提案
新しく観光振興や観光地の再生を図ろうとする地域は、ほかの観光地の成功例を参考にするだけではなく、独自の発想を基にした魅力づくりが不可欠である。観光振興を実践するに当たって留意すべきことを次に提案する。

(1) ほとんどの都市・市町村には、有名な観光地に肩を並べられるような観光資源はない。しかし、どの地域にも、長い歴史にはぐくまれた貴重な歴史や文化(財)、景観、伝統などが、地元の住民が気付かないまま埋もれている場合が多い。それらの資源を、「足元」を見詰め、「周辺」を見渡して、掘り起こす「宝探し」を行うことで、ほかの観光地に負けない素材を入手することが可能となる。

(2) 観光地にとって望ましい形の旅行者の受け入れは、シーズンに偏らず、来訪者が一年中期待できる「シーズンの平準化/延長」であり、観光資源の有効活用が可能となる。その手段として、①スリー・シーズン制

可能な、住民による「心のバリアフリー」運動の展開が考えられるべきである。

(3) 平成21年の訪日外国人旅行者数は11月(推計値)で、対前年比21・4%減となっている。世界的な経済不振下でも、同様の条件を抱える香港やシンガポールが良い実績を挙げているのを見ると、日本の減少は観光戦略とその実行の不十分さにあると考えざるを得ない。

表2 平成20年国別訪日外客数(観光客)の上位20カ国

国名	年計(人)	伸率(%)
韓国	1,892,654	-9.2
台湾	1,264,425	0.7
香港	513,185	28.4
米国	474,137	-3.5
中国	455,728	11.9
豪州	195,136	14.6
タイ	143,541	19.9
シンガポール	137,222	15.1
カナダ	131,504	4.6
英国	123,957	-3.6
フランス	90,689	14.6
マレーシア	70,355	12.5
ドイツ	55,090	8.2
フィリピン	42,515	-7.5
ロシア	42,066	11.4
インドネシア	40,494	5.4
イタリア	34,808	10.8
スペイン	32,383	32.4
ニュージーランド	23,404	3.7
インド	22,441	5.0
総数	6,048,681	1.6

日本政府観光局(JNTO)「2008年訪日外客数(観光客)」を基に編集部で作成

拠って立つ文化の再認識 ふるさと観光施策

遠野市長 本田敏秋



日本のふるさと再生
「願わくは、これを語りて平地人を戦慄せしめよ」

この『遠野物語』の序文の一説には、「急速に進歩する世情にあつても、先人から培われてきた素晴らしい歴史や文化を継承している営みにこそ、自信と誇りを持つべきだ」という強いメッセージが込められている。

『遠野物語』を著した柳田國男は、今から百年前の近代国家を目指して走り始めた日本人に対し、一体何を問いつけたのか。そして、百年後の現代を生きる我々は、このメッセージをどう受け止めるべきか。

遠野市は、平成14年から「どぶろく特区」に挑戦した。東北地方の小さな地域でも、身の丈で取り組めるものが何かあるはずだと挑戦したが、この「どぶろく特区」。北国の厳しい冬期間のわずかな楽しみは、明治以来百年間、酒税法の規制によって封印され続けてきた。その地域固有の食文化の復活を賭けて、

特区に挑戦したことは、今でも各方面から高い評価をいただいている。おそらく「どぶろく特区」という言葉から、遠野を連想される方も少なくないだろう。

構造改革特区は、そもそも経済の活性化をもくろみ、国が大胆な規制緩和を施したくてもできなかった分野において、地域を限定し規制緩和を実施するもの。ある意味、限られた地域を対象とした社会実験だと捉えてもいい。

地域経済の活性化だけでなく、もう一つ特区制度には、大きな役割がある。それは、地方自治の観点から、地域の特徴をもう一度よく捉え、何に挑戦できるのか、自分たちの頭でよく考える機会ができたということである。

実は、あまり知られていないが、本市の特区の名称は、「どぶろく特区」とは言わない。正式名称は「日本のふるさと再生特区」である。ふるさと再生のキーワードには、私の地域経営に対する思いが込められている。

本市は、岩手県を縦断する北上高地のほぼ中央に位置する人口3万人程度の小さな自治体。周囲を山々を取り囲み、東北地方の冷涼な気候と、盆地特有の寒暖の差が、四季の推移を画然とし、厳しいけれども自然の豊かさが実感できる地域である。

私は、決して奇を衒って「どぶろく特区」に挑戦したのではない。長い年月で培われてきた遠野の気候や風土、歴史や文化、暮らしの延長線上から、いわゆる一つの食文化として、自家製での酒造りを認めてもらいたいという思いが始まりである。地域に眠っていた古い地域資源と「言うべきどぶろく」を、特区という新しい手法で発掘できた。平成16年の春、早池峰山のふもと農家民宿MILK・INN江川を営む江川幸男さんの手によって、百年ぶりにどぶろくが復活した。今でも「どぶろく特区は、特区制度の象徴」と言われるが、官民一体となって地域資源の発掘と活用に取り組んだことで、一定の手応えとして実を結ぶことができたと言える。

小さな地域の、小さな挑戦は、今もなお続いている。MILK・INN江川のどぶろくは、少しずつだが製造量を年々増やしている。今では、市内4カ所でどぶろくが造られ、各施設とも年々製造量が増加しており、総量で1万ℓに近づきつつある。また、雑穀を原

料としたどぶろくや、どぶろくアイス、どぶろくのかき氷など、そのバリエーションも豊かに進化し始めている。身の丈での挑戦スタイルは、無理なく持続的に取り組まれている。

遠野遺産

本市の観光は、決して「どぶろく特区」ばかりではない。どぶろくは、あくまで地域資源の一つでしかない。本市の観光に関するアンケート調査によれば、遠野への訪問目的は、「遠野物語の地を訪れる」「名所旧跡めぐり」というように、景勝地としての存在というよりもむしろ、遠野独自の文化に関わる目的となっている。農家の生活体験やどぶろくの体験よりも、「民話や地域の人々との交流」や「城下町文化」が、魅力の核をなしている。すなわち、本市の観光施策に求められていることは、遠野独自の文化を活用した観光ソフトなどの充実であると言える。

拠って立つ文化の再認識が、本市における「ふるさと」の四文字をキーワードとする観光施策にとって重要な意味

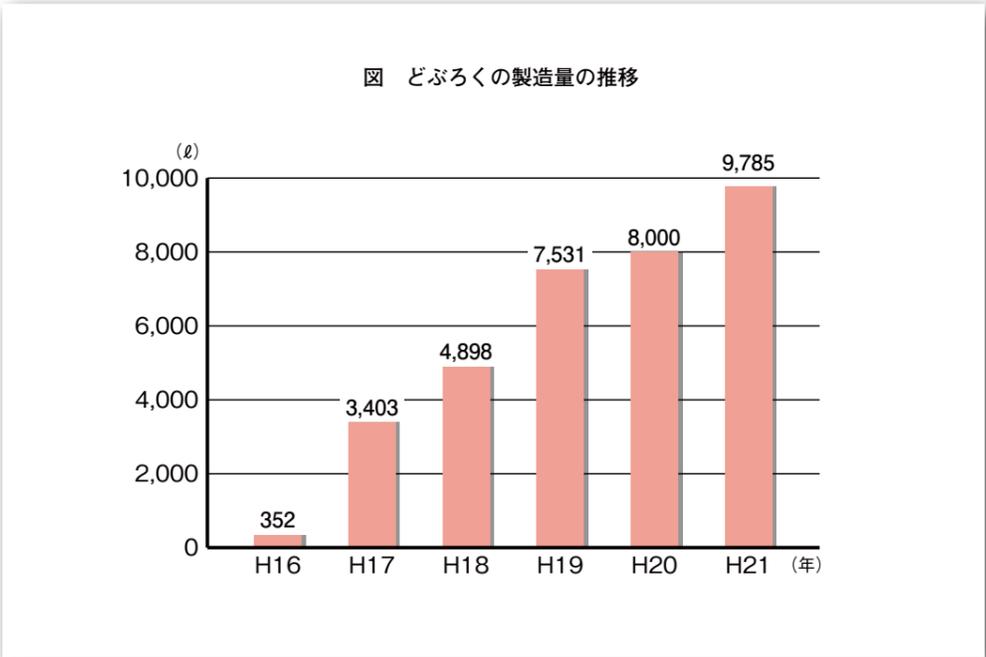
を持つ。「世界遺産というものがあれば『遠野遺産』があってもいいのではないか。」

本市では、平成19年3月に遠野遺産認定条例を制定した。

『遠野物語』の序文に「路傍に石塔の多きこと諸国その比を知らず」とある。今も遠野には、そこかしこに物語の世界が存在している。また、伝統や伝承、歴史や文化といった、先人から受け継いだ宝がまだまだ残っている。

およそ百もの地域資源が、今再び遠野遺産として甦っている。だが、遠野遺産の認定は決してゴールではない。市内では、遠野遺産を舞台に、地域住民が一体となって汗を流し、手作りの協働作業で地域の絆が深まっている。「おらほ(自分達の宝)を地域ぐるみで大事にしていこう」という意識を大切にしながら、地域の意識の火種を再燃させることができたことが「遠野遺産」の一番大きな成果である。それが今、遠野の新たな観光資源へと進化しようとしている。

遠野遺産は、条例に基づき市が認定を行うが、その選定過程においては、その道の権威だとか、専門家が決めるのではない。有形、無形を問わず、地域の先人・先輩方が大切に守ってきたもので、学術的な資料が無いというものも数多い。文献が無いから文化的な価値が全く無いということにはならない。文献も無く、資料が残っていないなくても、「地域に



年々製造量が増加している「どぶろく」

寄稿

3

世界ジオパークによる 交流人口の拡大

日本初の世界ジオパーク認定

昨年8月22日、糸魚川ジオパーク、洞爺湖有珠山ジオパーク（北海道）、島原半島ジオパーク（長崎県）の3地域が、日本から初めて、世界ジオパークに認定された。

平成19年12月、日本から世界ジオパークネットワークへの加盟を目指そうと、13地域で日本ジオパーク連絡協議会（現在、「日本ジオパークネットワーク」に移行）を設立してから、関係団体・機関のご支援もあり、約2年での実現となった。

「ジオパーク」とは、地球や大地を表す英語「ジオ(Geo)」と公園の「Park」を合体させた造語で、特徴的地質遺産と関連する貴重な動植物や文化遺産、防災施設などを研修・教育・研究するとともに、保護やジオツーリズムとして活用し、地域振興につなげていくという取り組みである。ユネスコ（国連教育科学文化機関）が支援し、2004年に世界ジオパークネットワークが設立された新

観光資源である。

古いものばかりでは、新たな魅力は見出せない。新しいものばかりでも、一瞬の流行りで終わってしまう。目新しい施設と奇抜なテーマだけで観光客を誘致しようとしても、それは決して持続的なものとは言えない。今一度、足元を見つめなおす発想と地域固有の文化、それに携わる人を互いにつなぎ直すことが必要だ。

「古くて新しいものが光り輝く」

遠野の観光は、決して目で見るだけのテーマパーク型ではない。地域に対する市民の愛着と地域づくりに取り組む姿勢が、遠野の観光資源であると言える。

地域には、さまざまな人がおり、無数の資源がある。その組み合わせの中から、地域の特性が醸し出されるものであって、それは決して一律に統制ができないはずだ。どぶろくも、その造り手や風土、米や製法の違いから、風味や強さなど無限の組み合わせが可能である。ある意味その混沌さこそが、どぶろくの面白さとも言える。

日本中が、中央の同一の基準や価値観だけで地域の個性を伸ばそうとしても、自ずと限界がある。既定の路線の上を歩むばかりでは、インパクトあるものは生まれにくい。自分たちの地域に自信と誇りを持って、地域づくりに取り組むことが必要だ。地域への熱意は必ず伝わるはずだ。このパワーが、熱伝導に



食文化として復活した「どぶろく」

よって、凍てついた意識の氷雪を解かすのだ。それはまるで、百年前に柳田國男が『遠野物語』の中で「平地人を戦慄せしめよ」と記したように……

国土の面積のうち、54%が過疎地とされている。そこには、わずか8.3%の人口しかない。このいびつな構造の中、平成の大合併を経て、過疎問題は合併後の都市の問題へと変わってきた。本市のように人口も経済も小さい地域が、いかに元気を取り戻すのか、これからますます重要だ。元気再生の一つの鍵は、地域固有の文化がそこにあるかどうかにある。

抱って立つ文化を再認識することが、「日本のふるさと再生」を掲げる本市の地域づくりのスタンスであり、それは同時に本市の観光施策に決して欠かすことはできない。

本年は、『遠野物語』が発刊されて百年目を迎える節目の年。この機会に、どぶろくに酔いながら、遠野物語の旅に出かけてみてはいかがだろうか。

(参考文献)

- 『遠野物語』 柳田國男(1910)
- 「平成14年度遠野地域観光まちづくり実施支援プログラム策定事業報告書」 国土交通省東北運輸局(2003)
- 「平成15年度リゾート・チャレンジ・プログラム(岩手県本市)報告書」(株)ツーリズム・マーケティング研究所(2004)
- 「平成20年度版過疎対策の現況」 総務省(2009)

糸魚川市長 米田 徹



糸魚川ジオパークの特徴

糸魚川市は平成17年3月19日、旧糸魚川市、能生町、青海町の3市町の対等合併により誕生した。

本市は新潟県の最西端に位置し、富山県・長野県と接し、746km²の広大な面積を有している。日本海から3000m級の山々まで変化に富んだ自然が広がり、その中に多種多様な動植物が息づいている。また、日本列島を東西に分断するフォッサマグナの西縁・糸魚川・静岡構造線が通り、ここを境として地質が全く異なり、ヒスイをはじめとした鉱物資源に恵まれるとともに、東と西、あるいは海辺と山間部の人と文化の交流により、固有の伝統文化をはぐくんできた。

糸魚川ジオパークは市全域がエリアとなっている。多様な資源があることから、テーマを持った24のジオサイト（見どころの集合地

域)を設定しており、5つの大きな特徴がある。

1 点目は、大断層・糸魚川・静岡構造線が通り、地質的に東北日本と西南日本にまたが



ガイド養成講座で地元ガイドが説明(弁天岩ジオサイト)



日本海上空から眺めた糸魚川ジオパーク(中央の川が姫川で、糸魚川-静岡構造線が通過)

このことは、ジオパークへの取り組みを進めることによって解決することができた。資源や地域などの連携については、例えばジオサイト内外の周遊コースを設定することにより、代表的な資源を見るだけでなく、学習・体験しながら回ること、地域の人々との触れ合いの機会を増やすことができる。また、積極的に情報発信することで本市への関心を高めることができるとともに、交流人口についても、フォッサマグナミュージアムの入館者や宿泊者数の増など、数となって表れている。当初、「ジオパーク」という言葉を初めて聞く市民も多く、本市では各地区・団体・企業への出前講座や小・中学生には現地の学習会、また、ガイド養成講座などを実施してきた。昨年11月に行った糸魚川ジオパーク検定では、約500名の参加があり、市民への普及や関心が高まってきた表れである。また、香港ジオパークと姉妹提携も行い、国際化への新しい取り組みも始まったところである。

さらに、ジオサイトを有する地域が協議会を立ち上げ、自らが地域の活性化策を探り出した。各企業や商店では、ジオパーク関係グッズとして商品化した動きもある。特に、「食」については、24カ所のジオサイトにちなみ、24のライスボウル(丼)を開発し、注目を浴びている。郷土愛を醸成し、ふるさと糸魚川に誇りを持って、その良さを多くの方に知ってもらおう。そして、自らが考え、動いて得たものは、たとえ失敗したとしても、前に進む原動力になると信じてい



北アルプスが日本海に落ち込んだ親不知の断崖(親不知ジオサイト)

しかし、多くの資源や取り組みがある中で、「お互いの連携が図られていない」「糸魚川の知名度アップにつながっていない」などが、大きな課題であった。

ジオパークによる新たな取り組み

「境界のまち」であり、この地質の差は、地形・生物・文化などに影響していること。2点目は、日本海から新潟県最高峰の小蓮華山(2766m)まで、「大きな標高の差」があり、多種多様な生態系が生じ、人間の文化にも大きな影響を与えていること。3点目は、糸魚川の大地は、古生代から新生代まで、さまざまな時代の岩石でできており、「大きな時代の差」がある。ヒスイの生成は



高浪の池と明星山(小滝川ヒスイ峡ジオサイト 正面の明星山は3億年前のサンゴ礁)

文化財や海の幸、山の幸といった大地の恵みなど、ジオパークへいざなう扉が多いことも大きな特徴である。

地域振興への取り組み

ユネスコの取り組みに先駆け、本市では、特異な地質資源を地域振興に活用するため、昭和62年に「フォッサマグナと地域開発構想」を策定し、平成3年度から現地での見学場所

約5億年前、活火山の焼山は3000年前に誕生し、5億年の大地の歴史があること。4点目は、火成岩・堆積岩・変成岩など、「多種多様な岩石」からできており、このことは生物、特に植物の分布に大きな影響を与えていること。5点目は、古代におけるヒスイや蛇紋岩、近代の金・銀・鉛・銅、石灰岩、白土など、「大地と人間のかかわりの物語が豊富」である。また、世界最古のヒスイ文化発祥地で、日本各地の遺跡から出土するヒスイのほとんどは糸魚川産であること。

このように、まさに糸魚川ジオパークは「地質のデパート」であり、大地がはぐくむ

を「ジオパーク」と呼び、解説板などの整備を行うとともに、平成6年度には、広域観光の拠点施設としてフォッサマグナミュージアムを開館し、市民への学習活動なども行ってきた。約300人によるミュージアム友の会が発足し、地質調査や研究が行われ、貴重な化石や鉱物が発見されてきている。

また、市民レベルでも豊かな自然や歴史・文化を活用した各種取り組みが行われてきた。例えば、古来より、越後糸魚川から信州松本方面に、塩や海産物などを運ぶために使用された「塩の道(松本街道)」は、明治期以降の近代交通網の発達により、次第に忘れ去られていった。地元有志が、この道を後世に伝えて行くため、整備を進めるとともに、25年前から歩くイベントの実施により、普及啓発に努めてきた。この塩の道は、糸魚川-静岡構造線に沿って、一級河川姫川を縫うように走っており、暴れ川であった姫川を避け、断層の活動で岩石が破壊され地形が緩やかになったところを通ったものであった。

また、北アルプスを縦走する登山道は、白馬岳方面から入り、朝日岳で途切れ、蓮華温泉、または富山県朝日町へ抜けるコースであった。山を愛する者たちは、日本海(親不知)まで縦走ルートを延ばそうと、昭和41年から休日を利用して器材を運搬し、6年かけて整備した道が梅海新道である。現在でも山小屋や登山道の充実とともに、維持管理も行っている。

こうした官民一体となった取り組みは大切にしたいし、真の持続可能な地域振興となるのではないかと考えている。現在、国内で認定された「日本ジオパーク」は11地域であるが、今後さらに増やし、国内でのジオパークの普及を図っていききたい。そして、観光・教育分野等での交流人口の拡大に向け、5年後の北陸新幹線開業も見据えながら、糸魚川らしさを前面に、糸魚川の個性を生かした取り組みを進め、多くの方にお出でいただけるよう、ジオパークの魅力向上と情報発信に努めていきたい。

四国はドラマチック、来て見て感じて土佐の龍馬伝!

安芸市長 松本憲治



大河ドラマ龍馬伝を追い風に

新年3日の「龍馬伝」で安芸市の英傑・岩崎弥太郎が登場するなり、「土佐の坂本龍馬をご存知ですか?」「15年前に徳川幕府を倒したのは坂本龍馬、そんな人間がおったことを人が知らんがですき!」と尋ねるシーンには衝撃を受けた。「知らんがですき」とは土佐弁で「知らないのですよ」の意味であるが、龍馬伝の時代は、今からたかだか150年前の時代である。混迷する現代、待望論がささやかれ全国的な人気を誇る坂本龍馬でも、明治の日本には龍馬の活躍を知らない人がいたという目の付け所に、私のような凡人が考えもしない世界観を演出するものだと感心させられた。この一年間、龍馬伝を楽しみながら自分の創造力も高めたいと思っている。

上の雲「そして高知県は「龍馬伝」であり、千載一遇の大きなチャンスをいただき、四国への大きな追い風を生かした観光振興に期待が膨らみ、このように四国が取り上げられることは幸せなことである。

郷土の英傑坂本龍馬と岩崎弥太郎

我々は民主主義の時代で自由を満喫しているが、江戸時代の幕藩体制は、士農工商の身分制度が厳しかった。幕末に政治、経済、生き方、歴史的価値観がゆらぎ、坂本龍馬や岩崎弥太郎は身分制度にとらわれない新時代の到来を模索しながら、行動力と洞察力を生かして激動の幕末から明治時代を動かした英傑である。坂本龍馬には、「世に生を得るは 事を成すにあり」「世の人は、われを何とも云はばいへ わがなすことは 我のみぞ知る」の名言があり、岩崎弥太郎には「後日 英名を天下に轟かさざれば 再び 降りてこの山に登らじ」と生家近くの妙見山の星神社に墨書して立身出世を誓い、江戸

野良時計 (島中家の種時計)
安芸市のシンボル(登録有形文化財)
明治20年頃、この地の地主だった島中源馬氏の製作。明治の中頃時計に興味を持った氏は、西欧より時計を取り寄せ、その仕組みを覚えた。そして、分銅も歯車も全て手作りの時計を一人で作り上げた。
安芸駅より約2km

岩崎弥太郎生家
[見学時間]8:00~17:00

岩崎弥太郎銅像
三菱グループの礎を築いた異才
慶応3年(1867年)、長崎に設立した土佐商会で腕をふるった弥太郎は、大阪に転勤し、明治6年(1873年)三菱商会を設立、経済界に乗り出した。以後、明治経済界を圧巻する活躍をし、「東洋の海上王」と呼ばれるようになった。
安芸駅より徒歩約5分

野良時計と岩崎弥太郎

に出たのである。新しい日本国の仕組みを変えようとした坂本龍馬。武士の世から経済の世を見抜いた岩崎弥太郎は、近代日本を築いた経済人となり、その精神は三菱グループの経営理念に受け継がれている。本市には岩崎弥太郎生家が現存し素晴らしい銅像もあり、坂本龍馬、中岡慎太郎、ジョン万次郎の銅像めぐりは若者のロマンをかき立てるに違いない。

安芸市の宝物を輝かす

本市は、高知龍馬空港から車で40分、土佐くろしお鉄道にはアンパンマンで有名なやなせたかし先生発案のマンガ列車やタイガース列車が走っている。温暖な気候を生かして、冬・春に施設園芸野菜が生産され、ナスの生産は日本一である。特に健康野菜は評判が高く全国に流通している。

江戸時代のたたずまいを残す土居廓中、明治時代に造られた気品のある野良時計、大正・昭和初期の作曲家弘田龍太郎の童謡は「浜千鳥」「春よ来い」「叱られて」「靴が鳴る」で知られ、奏でるメロディと曲碑めぐりが楽しい童謡のまち、小、中学生や社会人が競い合う全国書展が開催される書道のまちである。美味しい食材を生かした郷土料理、手作り体験ができる陶芸館とガラス館、全国のファンが集い45年の実績がある阪神タイガースキャンプなど盛りだくさんの観光資源をどうも活かしていきたいと反省

していた。事業者も観光ビジネスにまで底上げできていない現状にあったが、龍馬伝を契機に官民一体となった観光振興が展開できることは大きな喜びである。龍馬伝ブームを一過性にするのではなく地方経済の活性化に繋げていかなければならない。

本市は財政破綻を回避するのに8年を費やしたが、財政健全化ができた現在、江戸・明治・大正・昭和の資源に磨きをかけ、元気な市民と共に観光振興を図り、活気あふれるまちづくりを進める決意である。

観光立国には 高速道路整備が最重要

昨年、「天地人」でにぎやかな新潟県の南魚沼市長と上越市長を訪問し、大河ドラマによるまちおこしや経済効果をお聞きした。民間活力を支援して予想以

上の観光客や観光交流人口の増加で、両市長ともに満面の笑みであった。東京駅から



高知県アクセスガイド



全国からタイガースファンが集う安芸タイガース球場

30分ごとには走る新幹線、関越自動車道など大都会との動脈が形成され、地の利のある「天人」の開催地であり、県外ナンバーの観光バス、マイカーが駐車場にあふれていた。旅行会社も観光客も行きやすい新潟、山形に足を伸ばし経済効果を高めてきたと

言える。我が四国には新幹線もなく、高速道も整備されていない。高知市周辺まで高速道が整備されているが、本市までは狭い国道が一本しかないのが大きな悩みで、龍馬伝や阪神タイガースキャンプ対策の交通アクセスが弱くとも心配である。四国8の字高速ネットが完成すれば、四国をぐるりと周遊できて中国地方や関西、本州と繋がれ、時間距離の短縮と安全快適な自動車交通が確保できるので、国に高速道の完成をめざして粘り強く要望運動を展開していきたい。

一昨年中国各地や上海万博会場を訪問して思ったことは、10%の経済成長を続ける経済物流や外国観光を支えているのは都市と地方を繋ぐ高速道路ネットワークの良さであった。これからの日本が観光立国として外国からの観光客を増加させるためには高速道、港湾・空港のネットワーク整備が図られ、時間距離の短縮と安全快適な旅が確保できるかにかかっている。

「土佐・龍馬であい博」に来てみよう

1月16日から1年間、高知駅前のパビリオンをメインに本市、土佐清水市、梶原町ではサテライトを開設して高知県まるごと龍馬博を盛り上げている。高知市は坂本龍馬、本市は岩崎弥太郎、土佐清水市はジョン万次郎の生誕地であり、梶原町は龍馬が

脱藩したゆかりの地である。隣村の北川村は龍馬の盟友、中岡慎太郎の生誕地である。各会場では、ドラマの衣装や小道具・セットの展示、映画シアター、観光名所案内、みやげ地場産品の販売が行われ、高知県全体で観光振興と経済浮揚にかける意気込みは大きなものである。

本市では、地元のミュージシャンが龍馬と弥太郎ソングの創作、龍馬と弥太郎の地酒、食品、グッズを新作して販売している。安芸市経済を浮揚させようと市内の主要な民間団体が立ち上がり、はばたけ弥太郎・龍馬伝推進委員会が活発に活動して頑張っていたに違いない。観光案内版の設置、観光リーフレットの作成、龍馬、弥太郎などの着ぐるみ隊の編成、観光ガイドの養成、観光地の清掃活動などやる気満々である。

天国の弥太郎さんが「安芸は、こじやんと頑張らんといかんぜよ！（もっと、もっと頑張れよ）」と豪快に笑っていることだろう。

福山雅治の坂本龍馬と香川照之の岩崎弥太郎が日本中の若者に新風を吹き込み、パオニア精神あふれる新しい日本を期待したい。

また、高知県への注目度が一気に急上昇してたくさんのお客が訪れていただけに、本市ならではのおもてなしと魅力を発信して観光振興に精一杯頑張って、輝かしい平成22年にする決意である。

ユニークな産業構造・地域資源を積極活用 「日本のへそ」都市が進める新たな産業振興策

地域の医療拠点・西脇病院が もたらすもの

平成21年11月29日、平成16年度からの4期にわたる大規模な改築工事をへて、市立西脇病院(病床数320床、診療科数18科)がグランドオープンした。当日は多くの市民や関係者が詰め掛け、盛大な記念式典も開催された。市立西脇病院は、グランドオープン直前に日本がん治療認定医機構の認定研修施設となった。また北播磨地区最大の規模を持つ同病院は屋上にヘリポートを備え、災害時においても地域の拠点病院として機能することが期待されている。

市立西脇病院の改築工事は文字通り、西脇市にとって従来の主要事業だったが、それは別の観点からも、同病院の完成は関係各方面から大きな注目を集めていた。

周知のように地域医療をめぐる環境は近年、非常に厳しい。特に平成16年に研修医自

ら研修先を選択できる新医師臨床研修制度の導入後、地方都市の病院は深刻な医師不足に陥っている。市立西脇病院も平成16年まで50人いた常勤医が30人台にまで減少した。

とりわけ医師不足が深刻な小児科や産科を持たない地方の総合病院は、今や決して珍しくない。市立西脇病院は産科・小児科を併設し、それぞれ複数の医師を置く北播磨地域唯一の病院でもある。医師不足で一時途絶えていた小児科入院診療も復活した。同病院のグランドオープンが関係各方面からの大きな注目を集めたのは、そうした理由に加え、研修医確保の方策のモデルケースともなり得る取り組みが始められたからだ。

「地元の商店約250店加盟の西脇市商業連合会が、売り上げの一部で基金をつくり、西脇病院への研修医希望者に支度金を支給することを決めてくださったのです。これは総務省地域企業経営企画室からも『全国的に珍しい取り組み』と評価されたように、地域全



きしじいいち
来住壽一
西脇市長

体で支える地域医療の新しい取り組みの出發といえるでしょう」

そう語るのは来住壽一西脇市長である。研修医確保の対策として西脇市もこれまで、オール電化対応の研修医用公舎を格安家賃(月額1万5000円)で提供するなど各種の便宜を図ってきた。今回始められた支度金制度は、政府の定額給付金支給の際に連合会が発行した5000万円分のプレミアム付き商品券の売り上げの1%(50万円)で基金を創設し、連合会が市立西脇病院に寄付。病院はそれを研修医の生活必需品購入費などの目的で、1人当たり5万円を支給する仕組みだ(支

給は本年4月から)。

「それだけではありません」と来住市長は続ける。「西脇市では市立西脇病院を核とする地域医療のネットワークを充実させるため、さまざまな団体が貢献してくださっています。



西脇市民はもちろん北播磨地域全体が待望していた市立西脇病院のグランドオープン

例えば西脇市多可郡医師会の病診連携に基づく休日急患センターの運営もそうです。また平成19年に市立西脇病院の小児科医が1人になり、入院診療ができなくなったときには、西脇市のお母さんたちが『市立西脇病院小児科を守る会』を発足し、心強いサポートをしてくださいました。今では『西脇小児医療を守る会』に発展し、多彩な活動を通じて地域の小児医療に向けた市民意識の高揚に努めてくださっています」

研修医確保に向けた新たな取り組みの成果については、まだ予断を許さない。だが市立西脇病院を核とする地域医療圏構築に向けた行政・事業者・市民の協働による取り組みは、今後、安全・安心な市民生活の実現という観点からも、西脇市の協働のまちづくりを力強く下支えするキープポイントになる可能性を秘めているといえる。

特徴的な産業構造が生む 農・商・工の調和

西脇市は平成17年10月、旧西脇市と隣接する旧黒田庄町による1市1町の合併を果たした。これにより西脇市は旧西脇市7地区に黒



伝統的工芸品と地域ブランドにダブル指定されている織細・華麗な播州毛鉤の制作風景(伝統工芸士・竹中健一氏)

田庄地区を加えた8地区となった。典型的な田園地帯である黒田庄地区は後に述べるように、商工業都市として発展してきた旧西脇市にない大きな特徴を持っている。

もともと旧西脇市には、200年以上の歴史を持つ先染綿織物(播州織)と、釣針産業(播州毛鉤をはじめとする播州釣針)という確固たる地場産業があった。さらに世界シェア上位を占める米国半導体製造企業日本人の生産拠点が立地したことなどにより、西脇市は自然・田園・産業・都市の各機能が有機的につながる北播磨地域の拠点都市へと発展してきた。そこへ典型的な田園地帯で、黒田庄和牛の産地でもある旧黒田庄町が加わったことにより、西脇市は農・商・工のバランスが高度に調和する都市となった。

それだけではない。播州織は先染綿織物で

「その背景の一つには、中国製生地などの激しい価格競争からの脱却を目指したいという思いがあります。播州織の命はやはり品質の高さです。その特徴を生かすためには、価格を競うのではなく、高品質の製品による新たな需要を生みだすことに努力を傾注するべきだというのが、産地としての自負なのです」(来住市長)

西脇市はその拠点として、業界と共に第三セクター、財団法人北播磨地場産業開発機構を設置。ファッションショーも含めた播州織の見本市「播州織総合素材展」を毎年3月に東京で開催するようになった。また神戸ファッション専門学校との提携による神戸での播州織ファッションショー、地元の高校生たちによる播州織を取り入れた服飾作品の制作およびファッションショー、毎年8月に開催の「へ



旧織物工場を活用する産学連携プロジェクトで生まれた工房ショップ「播州織工房館」内には播州織を使った服飾・雑貨が並ぶ

その西脇・織物まつり」におけるファッションショーなども恒例化している。そうした外向きのアピールと並行して、播州織はTMOで進められる中心市街地活性化の原動力としても活用されている。特に県の先導的活性化事業を活用して平成18～20年度に実施された「播州織ファッション特区事業」の際に、織物工場の跡地や空き家などを活用する形で誕生した播州織工房館、西脇情報未来館21(播州織オーダージュシャツ等販売)、デザインーズブランドショップなどを巡る回遊コースは、中心市街地活性化にもつながるほどの人気を集めている。

実際に中心市街地を巡ってみると、国登録有形文化財「旧来住家住宅」など歴史を感じさせる落ち着いた町並みのたたずまいに、ショップなどが溶け込み、その異質な色彩や明るさが町並みにさり気ない刺激を与えているのが分かる。

またデザインーズブランドショップに展示されている播州織作品を手にとると、服飾素材として大量生産されてきた播州織が、新たなデザインの息吹を与えられることで、見事な一点もの・ファッションに生まれ変わることで実感できる。それも素材としての播州織



各種作品展も開催される中心市街地のランドマーク「旧来住家住宅」(大正時代・国登録有形文化財)

の品質の高さと風合いの良さが根底にあればこそ、だろう。

華やかなファッションの現場から一転、次に黒田庄和牛の堆肥が主人公の「有機の里づくり」の現場を訪れた。平成21年6月、豊かな田園地帯に開所したばかりの西脇市土づくりセンター「ゆめあぐり西脇」である。

「ゆめあぐり西脇」では黒田庄和牛の生産地である特色を生かし、約1400頭の黒田庄和牛から排出される牛ふんを年間3600t

全国一(70%)のシエアを占め、ロゴマークともども地域ブランドの認定を受けている。釣針産業は地域ブランドと伝統的工芸品にダブル認定された播州毛鉤を象徴に、釣針の全国シェア90%以上の生産量(周辺地域の生産量も含む)を誇る。西脇市に生産拠点を置く米国半導体製造企業日本法人は、大阪・神戸からも至便な位置にある西脇市をアジアの最重要拠点として位置付け、高レベルの投資を続けている。黒田庄和牛は高級和牛「神戸ビーフ」として出荷されるブランドビーフだ。

このように西脇市の経済をけん引する産業



東京・恵比寿で毎年3月に開催される「播州織総合素材展」

構造は、品質・知名度共に、非常に高度に特化しているところに大きな特徴がある。

「播州織にしても播州釣針にしても、黒田庄和牛にしても、長い伝統を有する地場産業が集積していることにより、西脇市にはそれぞれ分野で、技術的にも人材的にも大きな蓄積があります。世界の最先端をいく半導体製造企業日本法人も常に大きな雇用を生み出し、産業立地に至便な西脇市の付加価値を高めてくれています。西脇市では現在、このように特化した産業構造を地域資源として活用し、新たな産業創出・雇用創出に取り組んでおります(来住市長)

そのための仕組みづくりとして、播州織・播州釣針という地場産業と半導体製造産業を「伝統・先端」「特化産業」「技術活用型関連産業」と区分。それらの産業が持つポテンシャル(伝統・先端技術、豊富な人材など)をけん引役に、さまざまな形で関連産業の誘致や育成、製品の付加価値向上や新事業・雇用の創出を図ろうとしている。

一方でブランド牛・黒田庄和牛の堆肥を活用した「有機の里づくり」を進め、これを「地域」「資源再生」「活用型関連産業」と区分している。環境保全型農業の実現で安全・安心な農産物生産地としてのイメージを高め、食料・健康関連の企業誘致や、他産業(農・商・工)との連携による新事業・雇用創出を目指すための取り組みだ。

今回の取材ではそのうち、TMOによる中



播州織コットンを素材にデザインした各種服飾作品が並ぶデザイナーズショップ(玉木新雄ショップ)

播州織のさらなるブランド化と「有機の里づくり」

播州織は従来、生地としての生産出荷が中心だった。現在もそれは同様だが、内外の一流ファッションメーカーが競って素材にしてきた播州織に、これからは産地の視点で積極的に、デザインや生地の新たな使用方法などを提案することにより、新たな需要の掘り起こしをしようとするさまざまな試みが行われている。



西脇市では市民が策定した「地区まちづくり計画」に基づき各種市民協働事業が進行中

本の「へそのまち」を事あるごとに標ぼうしてきた。それは東経135度と北緯35度の交差点、すなわち日本列島の地理的中心に西脇市が位置していることに由来する。

「西脇市が日本の中心点にあることは、大正8年、東京高等師範付属小学校の肥後盛熊先生からの指摘で地元(当時は多可郡津万村・比延庄村)に伝わりました。それはひそかなお国自慢にもなりましたが、地元の特質として市民が改めて意識し始めたのは昭和52年のことでした。市制施行25周年に当たって依頼した国土地理院の最新計測でも西脇市が「日本のへそ」にあることが再確認され、それを契機に大いにアピールすることになったので



子午線上がスタートラインという西脇市ならではの「西脇子午線マラソン」には毎年県内外から参加者が集う(12月)

の予定で堆肥化している。実際に一次発酵、二次発酵の現場を訪れたが、意外なほど臭気が少ない。送風によって微生物の活動を活発にして牛ふんの発酵を促す堆肥製造方式をとっていること、さらに臭気を伴う風は常に強力な脱臭装置を通して外気に排出されるため、建物の内外とも臭気がこもらないのだ。

「ゆくゆくは『ゆめあぐり西脇』で生産され

る堆肥を使い、黒田庄地区の農地を有機土壌化し、地区を挙げて「有機の里」とするのが、私たちの夢であり目標です。そしてこの事業によって、自然環境の保全、農産物の質の向上、地域資源の有効利用、トレーサビリティを通じた消費者との連携、地産地消の推進などを目指しています(来住市長)

西脇市では黒田庄地区を中心に稲作、黒大豆、「ひょうご」安心ブランド認定農作物である特別栽培米(コシヒカリ、山田錦)、レタス、シヨウガ、キャベツなどの生産に取り組んでいる。また金ゴマは「日本のへそ」(詳細は後



郷土が生んだ美術家・横尾忠則氏の作品を収蔵する西脇市岡之山美術館(設計・磯崎新氏)

す(来住市長)

それ以後、シンボルマークの制定、「北海道のへそ」を標ぼうする富良野市との友好都市親善協定の締結、「日本のへそ・西脇子午線マラソン大会」の開始、世界の名所に杭を打ち込んでいくドイツ人芸術家ヘルムート・ベッテンハウゼン氏によるメモリアル杭の打ち込み、「日本へそ公園」整備、西脇市出身の美術家・横尾忠則氏の作品を収集した西脇市岡之山美術館のオープン(日本へそ公園内)、JR加古川線「日本へそ公園駅」開業、織物まつりと合体させた「へその西脇・織物まつり」の開始——など、数え上げれば切りがないほどにさまざまな事業を実施してきた。

「さらに現在では全国各地で地理的な『へそ』『中心』『重心』などを標ぼうする自治体と『全国へそのまち協議会』を結成して、物産展を持ち回りで開催しています。また『へそ』の由来である地球物理・宇宙物理的な興味を子どもたちにも持ってもらうために国内最大級の天体望遠鏡を備えた、にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」を建設し、さまざまなイベントや学習プログラムを実施しています(来住市長)

西脇市にとっての「日本のへそ」は、今や単なる位置的なアピールポイントではない。次代を担う子どもたちの夢の源泉でもあり、市民がイメージする「ふるさと」の重要な特徴としても、広く深く認識されている。

そのような意味では、西脇市で現在本格化

述)を標ぼうする西脇市の特産品「日本のへそゴマ」として特産品に育てる取り組みが行われている。

将来的に「有機の里づくり」が進展すれば、そのクリーンイメージと共に、西脇の農産物の付加価値はさらに高まるだろう。

西脇市のまちづくり「へそづくり」

西脇市には「日本のへそ」というキャッチフレーズがある。前述した「日本のへそゴマ(金ゴマ)」の例のように、西脇市ではこれまで「日



「日本のへそ」西脇市を象徴する日本へそ公園(建物は「にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」」)

しつ々ある「地区まちづくり計画」に基づく市民協働のまちづくりも想起される。同計画は市内8地区それぞれの住民の手によって策定されたものだ。内容はささやかなあいさつ運動から、幹線道路も含めた道路整備、防犯・防災対策、バリアフリーのまちづくりなどにまで至る。その積極的な活動ぶりは、まさに「地域のへそ」を自分たちの手ではぐくもうとするかのような感がある。

そのように考えれば、地域医療圏の拠点・市立西脇病院の存在や知名度・品質共に高度に特化した産業構造と今後の振興策の在り方なども、まさに地域の新たな「へそ」づくりといえるのではないか。「へそのまち西脇」の今後が、いろいろな意味で注目される。

(取材・文 遠藤 隆)



黒田庄和牛の牛ふんを堆肥化する西脇市土づくりセンター「ゆめあぐり西脇」で発酵を待つ牛ふんの山

南アルプス市(山梨県) 「民力」を生かしたまちづくりで、 住民に自信と誇りを

南アルプス市の概要

南アルプス市は、全国に先駆けた住民発議により、「6色の夢きらめく躍動の新文化都市」を目指して、平成15年4月1日、山梨県中巨摩郡八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の6町村が合併し、誕生しました。新市の名前が全国初の片仮名の市ということでも全国的に話題となりました。

合併によって、南アルプスの主峰北岳を頂点として東西に広がる面積264.06km²、人口約7万3000人を有する市となりました。現在、3000m級の山々を多く持つ南アルプス連峰の世界自然遺産登録に向けた活動にも取り組み、南アルプス市のイメージを広く発信しています。

本市は、山梨県の甲府盆地西域10km、御勅使川の扇状地に位置し、日本第2位の高峰北岳を含む南アルプスを山岳観光の柱としています。また、扇状地に広がるサクラランボ、モモ、スモモ、ブドウなどの果樹観光も盛んであります。

近年、甲府盆地を周遊する新山梨環状道路

した事項については、地域審議会に諮問し答申を得た中で進め、現在も調整を重ねる作業が続いています。

合併の検証

合併を行ったことで、念願であった防災拠点を整備し市民の安全を確保する手だてが増えました。

合併の経緯

南アルプス市
面積 264.06km² / 人口 73,137人



平成 9年 7月	「峡西地域市制推進協議会」設立
平成10年12月	各町村の住民1名が、署名簿を添えて合併協議会設置請求書を町村長に対し提出
平成12年 4月	「八田村・白根町・芦安村・若草町・櫛形町・甲西町合併協議会」の設置
平成14年 5月	第12回合併協議会で合併の是非を決定
平成14年 7月	第14回合併協議会で名称を「南アルプス市」と決定
平成14年10月	合併協定調印式
平成15年 4月	「南アルプス市」誕生

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口は「住民基本台帳」による。

と、市内に2つのインターチェンジを有する中部横断自動車道など道路網が整備されたことにより、企業誘致も進み人口も増加傾向にあります。

住民発議による合併

本市の合併機運の高まりは、地域団体や個人により設立された「峡西地域市制推進協議会」が、「市町村の合併の特例に関する法律」に基づく合併協議会設置の直接請求をしたことに始まります。

合併以前から、6町村は地理的・地形的にもまとまりを有し、経済・文化・歴史の沿革・生活上のつながりなど多くの面で結び付きが深い地域でありました。

こうした状況下、住民発議を行うため峡西青年会議所・地域の商工団体・女性団体・ボランティア団体などが立ち上がり、法定要件2%をはるかに超える41.19%に当たる2万1608人の署名を集め、平成10年12月に6町村長に直接請求を致しました。この結果、平成12年4月法定合併協議会が設置されました。

また、旧町村ごとに行われていたイベントは各地区に運営主体を移し、市全体で集まるメインの祭りを新たにスタートさせ、地域の一体化が大きく図られたように思います。

さらに、単独の町村では実施できなかった事業にも取り組んでいます。眠っている資源の有効活用を狙い、自然のエネルギーを利用した小水力発電で公共施設の電力を賄い、CO₂の削減を図っています。それに加え、耕作放棄地や遊休農地を利用し、市外の人が農業を通して市民と触れ合うクラインガルテン事業なども推進しています。

併せて、身近にあった「役場」が遠くに行ってしまったと住民が感じることをないように、旧町村に支所を配置し、住民サービスの確保に努めています。

そして今、「民力を生かす・協働のまち」を目指し、その一環として、公募提案制度で桜並木を管理するパートナーを市民に募っています。また市民からは、廃油を無公害のBDFに変え市の公用車に利用する、食品ロスをなくすためのフードバンク、花壇で彩るまちづくり、などの提案を頂き、既に実施している事案もあります。

住民の力「民力」は市全体の資質向上につながるものです。住民の思いや声がちづくりの源となりますので、これからも「まちづくり・ひとづくり」に力を入れなくてはならないと、常々思っております。

また、戦後最悪といわれる不況に直面し、

合併へのきっかけが住民発議によるものであったことは、6町村の各首長としても行政としても、次代のまちづくりにシフトする良い足掛かりであったと考えております。



南アルプス市長
今沢忠文

合併協議

住民発議によって合併協議会が設立され、各町村11名、66名の合併協議会委員が、6町村の合併に関する協議や建設計画の作成についての審議を重ねました。

6町村の持ち味を生かす、魅力を引き出す、継承するということが、行政サービスの統一化を図ることは時に相いれないものがあり、紆余曲折を繰り返しました。

しかし、住民の関心も高く時間を要す事柄であり、広く意見を聞くという意味からも、市町村合併の特例に関する法律第5条の4第1項の規定に基づき、地域審議会を旧町村ごとに設置することで、地域住民の意見集約を図ることに致しました。

保育所の運営方法や類似した施設の管理使用方法、行政情報の提供方法など地域に密着

次代を担う未来ある子どもたちに確かな形で委ねていけるような財政基盤を構築することは、私の使命と考えております。

6色の夢きらめく躍動の新文化都市

私は、自治体の基本となるものは民力や人材の育成にあると考えています。

日々刻々と変化し先行きの見通しが不透明だといわれるこの社会状況で、それに合った政策を積極的に展開していくために、本市では前年4月に政策と財政が一体化した機構改革を行いました。

また、先を見据えた人づくり、政策作りのため「政策作り勉強会」を総合政策部の職員を中心に立ち上げ、活発に活動しています。

併せて、市役所内全体での政策形成力を高めるため、政策推進担当を各部署に配置し、政策を的確に実践していく体制づくりを進めています。現在、市民に公約したマニフェストが確実に実施していける体制づくりが出来上がっています。

これからはますます、行政において住民が参画できる場面の創設が必要になると考えています。

私は、市民の皆さんの持っている力を頂き、共に手を取り合い、市民が自信と誇りを持って「協働のまち 南アルプス市」を目指してまいります。

瀬戸内市(岡山県)

合併した効果は簡単には 実感できない

瀬戸内市の概要

瀬戸内市は、旧邑久郡3町(牛窓町・邑久町・長船町)が合併し、平成16年11月1日、岡山県下第11番目の市として誕生しました。

本市は、岡山県の東南部に位置し、西は岡山市、北は備前市に接しています。人口は約4万人で、総面積は125.53km²で、西端に岡山県三大河川の1つの吉井川が流れ、平野部には市街地と田園地帯が広がるほか、東部地域や海岸部は、丘陵地となっています。南部は、瀬戸内海に面し、島しょや海岸など自然景観に恵まれ、瀬戸内海国立公園に指定されています。西日本最大級のヨットハーバーなどがあり、観光客も多く、交流が盛んです。

古くから本市は、開けたまちとして栄え、神社仏閣や古窯跡群、朝鮮通信使関連遺跡や城跡などの史跡、竹久夢二の生家や備前おさふね刀剣の里など多彩な歴史・文化資源があります。

合併の経緯

邑久郡3町は、地理的にも歴史的にも、経済・

さらに、合併したことによる財政規模の拡大を生かし、中長期的にみて必要な投資を計画的に進めるためには、市民との合意形成が欠かせません。従って、受益と負担を市民にうまく示しな

合併の経緯

瀬戸内市
面積 125.53km² / 人口 39,081人



旧邑久町
旧長船町
岡山市
旧牛窓町

- 平成13年 3月 県が、岡山市市町村合併推進要綱を策定。その中において、邑久郡3町を1つとする合併パターンが示された。
- 平成13年 6月 邑久郡3町の町長および各町6人の幹部級職員で構成する「邑久郡合併問題研究会」を設置した。
- 平成14年 3月 県に、合併重点支援地域の指定を要望。同日、県は、邑久郡地域を合併重点支援地域に指定することを決定。
- 平成14年 8月 法定協議会「邑久郡合併協議会」を設置。
- 平成15年10月 「邑久郡3町の合併について長船町民の意思を問う住民投票」を実施。
賛成：2,648票、反対：3,084票
- 平成16年 2月 長船町内において、住民対話集会を開催した後、長船町長が、邑久郡合併協議会の再開の申し入れを提出。
- 平成16年11月 「瀬戸内市」誕生

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口は「住民基本台帳」による。

文化・生活の面でも深い結びつきを有し、行政面でも、介護保険や地域情報化について広域連合を設置するなど共通する行政課題に対処するため、多角的な運営が図られていました。

全国的に合併に関する議論が高まる中、従来からの広域行政の取り組みを背景として、県内でもいち早く、行政主導の合併議論がスタートしました。平成13年6月には、町長・助役などによる「邑久郡合併問題研究会」が設置され、合併について前向きに取り組むことを基本方針とすることを確認した上で、計10回の研究、議論を重ねました。平成14年3月には、県下第1号となる合併重点支援地域に指定され、8月には、法定協議会「邑久郡合併協議会」を設置しました。

合併の方式、新庁舎の位置、名称など協議は順調に進んでいきましたが、平成15年7月に長船町で議員発議による住民投票条例が制定され、10月に住民投票が実施されました。結果は、合併反対が過半数となり、3町合併は暗礁に乗り上げました。一度は合併の期日を平成16年3月1日と協議会で決定したものの、長船町長は現時点では調印はできないとして、

がら、市民に大きな負担感を与えないように計画的な市役所の構造変革を進めていく必要があります。

その一方で、市民の意識の中には、合併した旧3町が持っている文化や風土の相互理解が十分に進んでいるとは言えない面があります。一つの市としての一体感を醸成しながらそれぞれの地域の違いを理解するための取り組みが求められています。

合併後の新たなまちづくり

合併して6年目を迎え、平成21年7月の市長就任の際、次のマニフェストを掲げました。今後これに基づき総合計画を見直したうえで、具体的な目標を設定し、進捗管理をしていきます。

- ① 休日・救急の際も頼れる医療環境を整え、障害者の活躍の場や、高齢者を地域で支える仕組みをつくることで、住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。
- ② 子どもを通わせたい学校園づくり、地域の文化を守り育てるまちづくり、市民の生活に応じた読書や学習の機会をつくりまします。
- ③ 子育て支援の枠組みをつくり、地域で子育てを応援できるまちを目指します。
- ④ 地域の資源を生かし、多くの人に何度も訪れてもらえる「世界の瀬戸内市」を目指します。
- ⑤ 学校教育や社会教育を通じて環境学習の機



瀬戸内市長
武久顕也

協議会では、3月1日の合併断念を確認せざるを得ませんでした。こうした中、住民組織「邑久郡3町の早期合併を求める会」が、短期間で有権者の半数を超える署名を集め、町議会に対し、合併推進の決議を求める請願書を提出しました。長船町では町長が住民対話集会を開催するなどし、住民の理解が得られたとして、平成16年2月に合併協議の再開を協議会に申し入れました。第20回協議会において、合併期日が平成16年11月1日と決定され、3月には、県内で初めての合併協定調印式が開催されました。

合併の検証

合併して、6年目を迎えました。その効果を市民が実感することは容易ではありません。なぜなら、窓口サービスの統合や、使用料などの値上げなど、市民負担が起きている部分が見えやすい一方で、組織のスリム化や各種公共施設の在り方の見直しなど合併の効果が高めるための取り組みは市民には見えづらく、一定の成果を上げるには時間がかかるからです。

会をつくり、市民が環境問題に自ら取り組むまちを目指します。

- ⑥ 自主防災組織などを増やし、非常時には地域で助け合えるような準備を進めます。
 - ⑦ 市民の力でつくって守る施設や道路を増やし生活基盤の整備されたまちを目指します。
 - ⑧ 市民や企業がまちづくりに積極的にかかわることができるような支援の仕組みづくり、部門別コスト管理の手法の導入、市全体を連結で見た改善状況の公開、職員の能力開発の機会の増加、内部統制の強化などによって、市民に信頼される市役所を目指します。
- このマニフェストで示した項目を実現するために就任以来、次の取り組みを実施してきました。
- ・開かれた市役所をつくるための副市長、教育長(教育委員)の公募
 - ・マニフェストに基づき、緊急的・横断的課題を解決するための市政戦略会議の設置
 - ・ごみの減量化などの環境行政を進めるための備前広域環境施設組合からの脱退表明
 - ・市民活動を支援するための公募型補助金の導入検討
 - ・総合計画と次年度予算へ市民ニーズを反映させるための市内14カ所における「タウンミーティング」と対象別の「みらい会議」の実施
- これからも、市民や職員との対話を重視し、攻めの自治体経営を実践していきます。

国東市(大分県)

自然と文化と産業が調和するまち

国東市の概要

九州の東北部に位置し、国東半島のほぼ東半分を占める「国東市」は、平成18年3月31日、国見町、国東町、武蔵町、安岐町の4町合併によって、大分県内14番目の市として誕生しました。



国東半島の中央にある両子山を中心に、扇状に広がった地形は、北は周防灘、東は伊予灘に面し、西は豊後高田市、南は杵築市に接しており、温暖な気候と「山・川・海」の自然に恵まれた風光明媚なところです。

歴史的には、宇佐神宮と深くかわり、古代から現代に至るまで永々と営まれた神仏習合の山岳仏教寺院群、「六郷満山」を中心に仏教文化が花開いた、仏の里であります。

多くの石造美術が各所に残され、神仏習合の原風景を今に伝える文化財の宝庫となっております。民俗行事の「修正鬼会」や「峯入り」などは生きている遺産として今もなお続けられており、ほかに類を見ない文化的な価値を有する地域として世界遺産への登録を目指しています。

産業では、全国に誇れる乾シイタケや太刀魚をはじめ、車エビ、タコあるいはミニトマトやネギ、七島イ(豊表)や花弁を地域の特産品としています。

また、大分県の交通の要として、空の玄関である大分空港や、東九州と中国地区を結ぶスオーナダフェリー(徳山港・山口県周南市/竹田津港・本市国見町)を有しています。この地理的条件を生かし、ソニーやキヤノンなどの先端技術型企業の立地が進み、大分県の産業分野で重要な役割を果たしています。自然と文化と産業が調和しながら発展しているまちです。



国東市長
野田侃生

るまちです。

合併協議の経緯

市町村合併の動きは、大分県が平成12年12月に制定した「大分県市町村合併推進要綱」に示された合併パターン(東国東地域4町1村)の検討から始まりました。

平成13年5月、5町村長による研究会の立ち上げ、続いて平成14年3月に任意の協議会を設置し、延べ15回の協議が行われました。平成15年10月には法定協議会である「東国東地域町村合併協議会」に移行し、合併に向けた本格的な協議が開始されました。

すべての協議項目(41項目)の確認までに、法定協議会の開催は20回に及び、途中、姫島村の脱退により協議会名を「東国東4町合併協議会」に改称して協議が継続されました。

新設合併のため、「新市の事務所の位置」の協議は難航し、協議(8回)を重ねた結果、新庁舎建設の位置は新市で決定することとし、建設までの間、旧国東町役場に置くこととしました。

とが確認されました。また、旧町役場は総合支所とし、総務企画部門以外の多くの機能を残したものとりました。

合併後の課題

平成の市町村合併は、地方分権や社会情勢の変化に対応できる効率的な行財政の確立への出発点です。

新市の市政運営では、行財政改革に全力で取り組んでいます。ハード事業に関しては、選択と集中(CATVの全域普及、事業内容の見直し(箱物事業の凍結)と事業期間の延長などによる単年度事業費の抑制を図りました。組織機構と職員に関しては、福祉施設の民営化や観光交流施設などへの指定管理者制度の導入など、民間活力の有効活用により歳出抑制を図るとともに、退職職員の不補充(新規採用の凍結)により職員数の早期適正化を図っています。

新市のまちづくり

本市は面積317.84km²、人口3万3323人の自治体です。10年後の高齢化率が40%(推計値)に近づく過疎に対応するまちづくりとして、高齢者対策では、「緊急通報システム」や市ボランティア連絡協議会が推進する「黄色い旗運動」で安否確認が図られています。

小規模集落(いわゆる限界集落)対策では、大分県と連携して集落応援隊を募り、道路の草刈りや地域の祭りなど少子高齢化により遂行困難な集落行事に参加(応援)して交流を深める取り組みを行っています。



このような施策を推進するためには、市民の参画が必要不可欠なものであります。本市では、「いにしへの宝を未来につなぐ、しあわせ実感のくにさき」を将来像とした「第1次国東市総合計画」が平成20年度からスタートし、「市民の参画・協働のまちづくり」の一層の推進に取り組んでまいります。

合併の経緯

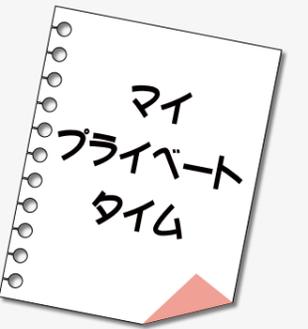
国東市

面積 317.84km² / 人口 33,323人



- 平成13年 5月 「東国東郡町村合併問題研究会」設立
- 平成14年 3月 「東国東地域町村合併任意協議会」設置
- 平成15年10月 「東国東地域町村合併協議会」設置
- 平成17年 1月 姫島村が協議会離脱
- 平成17年 2月 「東国東4町合併協議会」に改称
- 平成17年 3月 合併協定書調印
- 平成18年 3月 新設合併により「国東市」誕生

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口は「住民基本台帳」による。



青年会議所との出会い

大東市長(大阪府) 岡本日出士

Hideshi Okamoto

はじめに

「光は東方より」の言葉を思い55年前、大阪河内平野の東端、生駒山脈の麓に2町1村が合併して誕生したこのまちは、大阪を光り輝かせる先進地として位置付け「大東市」と名付けられたようです。

ちなみに大東は、「東の果て」「極東」ひいては「日本国」と辞典に出ています。そのような先人の思いのつまった本市は、ご存じ東海林太郎さんの「野崎小唄」に歌われた「野崎観音」がある緑豊かで人情に溢れた人口約13万人のまちであります。その大東市の前身であります北河内郡南郷村で生まれ育った私を少しだけ紹介させていただきます。

J・C・RCでの活動

私は10数年勤めた建設会社を退社し、昭和44年4月に大東市で建設業を始めました。そして2年余りが経過したころ、本市に青年会議所(J・C)を設立しようとする動きが盛り上がり、私も同窓生に誘われ参加しました。

以来、J・Cの目指す「明るい豊かなまちづくり」運動に70数名の経営者や経営者の子弟と共に毎夜のように会議を開き、そして時には酒や麻雀も加えながらJ・C活動に懸命に取り組みました。特に前年の日本青年会議所会頭の牛尾治朗氏が掲げ

た新しい時代のスローガンは、私たちの熱意を一層盛り上げてくれました。

また、全国大会などには必ず参加し、多くの人々と出会うことができました。今では故人となられた同年配の小淵恵三元総理大臣とは山梨県で車座になり酒を飲む機会があり、福田、中曾根両元総理と同じ選挙区で偉大な両先生にはさまれ苦闘している話などをお聞きし、世の中にはさまざまな分野での仕事や生き方があることを直接感じることができ一層視野が広がったように思いました。

私自身、「価値あるJ・C」をスローガンに3代目の理事長の年に、国交回復された中国へ「日

中友好の船」で当時の大阪府副知事の岸昌氏を団長とした一行に大東J・Cを代表して2週間訪問したことも深く記憶に残っています。このようなJ・Cでの活動を通じて、私は本気でまちづくりに取り組む決意ができたのかも知れません。

そして、1976年にJ・Cを卒業した後は、「大東ロータリークラブ(RC)」の会員として本市の繁栄のために取り組み、現在も市長とは別の立場から地域社会が欲しているものを探しだし、そのニーズ



大東RC 40周年記念式典にて

に応えるためのさまざまな活動を展開しています。

このRCやJ・Cでの長年にわたる活動が平成12年の市長選挙に出馬する契機となったことは申すまでもなく、私の人生にとって最大であるとともに最高の出会いだったかも知れません。

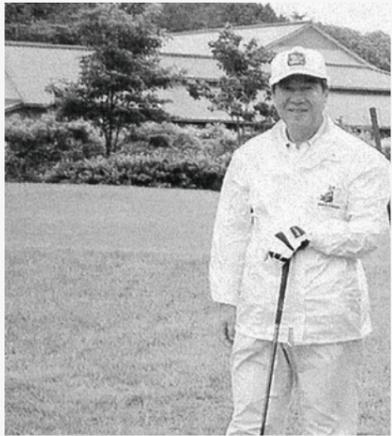
オフは自然と仲間と共に

私の一番の楽しみは、なんとと言ってもゴルフです。市長に就任してからはめ

きり回数が減ってしまいましたが、全く予定のない日は出来るだけゴルフ場に出掛けるようにしています。

ゴルフは本当に楽しいし飽きないので。晴天の時に広大な芝生の中で白球を打つ気持ち良さ、ラウンドしながら仲間と弾むなんでもない会話、そしてプレー後のお風呂の心地よさなど、どれをとっても私をリフレッシュしてくれ、明日からの活力が生まれます。成績がはっきり数字に表れるし、数あるスポーツの中で唯一審判員の無いスポーツであり、自身の規律によってマナー・ルールを守りながらプレーし、メンタル面も鍛えながら感動と興奮を得ることが出来る奥の深いスポーツがゴルフであると思います。

また、最近は乗用カートが多くなったとはいえ、ラウンドするとかなりの距離を歩くため足腰が強化され、健康の増進や運動不足の解消、そしてストレスの解



筆者のオフの楽しみであるゴルフ

考える時間と読書

私は、時間があれば本を読むことにしています。最近では「高熱隧道」(吉村昭著)や「許されざる者」(辻原登著)などを楽ししく読ませていただきました。

「高熱隧道」では、戦前のエネルギー需要の必要性から国策として黒部溪谷に隧道を掘りダムを造る工事で、岩盤が予想の摂氏60℃をはるかに超える160℃まで達する炎熱地獄と過酷な自然の中で目的達成のために命を賭ける人々の物語であり、建設業に携わる者として感動しました。

また、作家としては司馬遼太郎さんが好きで、作品の大半は読ませていただきました。年末のテレビで放映されました「坂の上の雲」や今年の大河ドラマの「龍馬伝」が今後どう展開されるのか楽しみであります。

結びに

今まで私は、聖徳太子の憲法17条の中にあります「和を以て貴しと為す」「礼を以て本とせよ」を基本に、会議や仕事、飲食

中、家族と過ごす時、いつも明るく仲良くを心掛け、問題や困難が生じても積極的に楽しく解決することを常に心掛けてやってきました。

そして今後も、お互いが認め合い、支え合いながらの人生を送りたいと思っています。私は、大東市についても「広い思いやりの心」と「公のために尽くす清廉な価値観」をもって、希望が照らす未来へと市民の皆様と共に力強く歩んでいきたいと思っています。



盛大な大東市のだんじりまつり

阿武隈の自然にはぐくまれた 歴史と食のまちのこれから

はじめに

角田市は、宮城県の南部、阿武隈川の下流域に位置しています。周囲を阿武隈の山々に囲まれ、遠くに蔵王連峰を望む風光明媚な住みよい小盆地で、面積147・57㎢、人口約3万2000人の田園都市です。

本市は、阿武隈川の流れに沿って古くから開かれ、江戸時代には阿武



多くの家族連れでにぎわう「宇宙っ子まつり」

隈川舟運の発達とともに伊達家一門筆頭の石川氏の城下町として栄え、角田盆地独自の歴史文化が築かれてきました。平安文化の薫りをとどめる高蔵寺阿弥陀堂(国の重要文化財)をはじめ、坂上田村麻呂が建立したという斗蔵寺観音堂、明治から大正に建築された数寄屋造りの豪邸を整備した郷土資料館など、歴史文化遺産が数多く点在しています。

また、日本のロケットエンジンの研究開発を行っているJAXA角田宇宙センターがあり、市の中心部の台山公園にはH-IIロケットの実物大模型をはじめ、宇宙展示館としてスペースタワー・コスモハウスがあります。毎年この場所で、こどもの日に「宇宙っ子まつり」が開催され、多くの家族連れでにぎわいを見えています。

さらに、阿武隈川の両岸には、平

たんで肥よくな約5000haの農地が広がっており、全国に先駆け、減農薬・減化学肥料による有機農業に取り組んできました。特に、特別栽培米(角田産ひとめぼれ)をはじめ、角田産大豆・秘伝豆、プロッコリ、ナシなどの農産物や、あぶくま納豆、梅干し、地ビール(仙南クラフトビール)など、魅力ある食の角田ブランドがこの環境の下に創出されています。

工業では、ホンダ系列の自動車部品工場の(株)ケーヒンをはじめ、アルプス電気(株)、ホーチキ(株)、アイリスオーヤマ(株)など、優良企業が比較的多く立地する工業都市の側面も兼ね備えています。

現状と課題

本市は、昭和40年代前半までの高度経済成長の時期に、大都市への労働力の流出が著しく、人口は年々

減少の一途をたどりました。しかし、工業用地の整備、企業誘致や第三セクター鉄道の阿武隈急行線開通などへの懸命な努力のかいあって、平成2年には、市制施行当時の人口まで回復したところです。その後は、本格的な少子高齢化、若年層の流出などにより減少傾向が続き、平成17年度に人口減少と地域活性化の対策として、「定住促進、角田・いらっしやいプラン」を策定しました。このプランに沿い、マイホーム取得支援制度、企業立地優遇制度、子育て支援事業を三本柱とした施策を実施しております。本年の6月で丸5年を迎えることとなりますが、人口減少の抑制効果見込みとしては、大変善戦した状況であるといえます。

現在、本市は、少子高齢化をはじめ、人口減少と産業停滞による活力の低下、財政難という大きな構造的な危機に直面していることから、今後この制度の充実を図り、定住化促進対策に積極的に取り組んでいきます。

活力あるまちづくりを 目指して

私が市長に就任して以来、「小さくてもキラリと光る誇りの持てるまち」を基本理念とした上で、地方都市の個性化戦略として、行財政改革への対応、活力あるまちづくりへの対応、人口減少に歯止めをかけるための対応に取り組んできたところです。

これからの変革の時代に遅れを取らずに対応するためには、行政にかかわる者一人ひとりが持っている力を市長の下に結集し、まとまった大きな力に変え、実行力のある知性集団となるよう行政力を高めていくことが大切です。

また、平成21年度から2カ年度をかけて、新たな長期総合計画を策定しています。この計画を策定する上においては、部分的、短絡的な行政効果を求めるような発想から、長期的な展望に立った戦略を構築し、「全体最適」を求める視点から発想することが重要と考えています。地区民を挙げて取り組んだ地区計画の推進のためにも、市民と行政の円熟した協働の関係により、総力を挙げて市政を押し進めることが大切です。特

に、「定住」と「交流」をキーワードとし、地域に隠れているキラリと光るものを発掘、これらを含めた地域資源を生かしながら都市間の交流を活性化し、活力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。

おわりに

秋には、常磐自動車道山元インターチェンジにアクセスする道路が開通する予定となっております。流通体系が大幅に改善されます。これを機会に、農商工連携により、「食の角田ブランド」と歴史・自然資源とを効果的に組み合わせ、角田ならではの観光物産の振興や交流拠点づくりを進めるなど、地域活性化のための施策を展開していきたいと考



春の風物詩となっている「菜の花まつり」

えています。

また、心豊かな、文化の香る、魅力的なまちづくりとして、まちなか再生への取り組みを行います。商業地域から文教地域にかけての資料館や市民センター界隈を中心とした、にぎわいや機能性の高い生涯学習などの拠点づくりのため、ビジョンを策定し整備を進める予定です。

さらに、学校施設の耐震化整備事業が当面の最大の課題です。ほかに、シルバー世代の健康長寿対策、若者などの定住対策、子育て支援、企業誘致や道路水路などの都市基盤整備の促進など、課題は山積しています。これらの諸課題に全力を挙げて、小さくてもキラリと光る市民が誇りを持てるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 147・57㎢
- ◆ 人口 3万2128人
- ◆ 世帯数 1万822世帯

〔将来都市像〕小さくてもキラリと光る交流都市かくだ

〔まちの特徴〕豊かな自然資源と豊富な歴史的文化遺産が点在する一方、日本の未来を担うロケットエンジンの研究開発拠点を有する明日の宇宙を拓くまち・かくだ

〔特産品〕梅干し、あぶくま納豆、長イモ、ナシ、角田産大豆・秘伝豆、特別栽培米(角田産ひとめぼれ)、ブ



角田市長 大友喜助



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

富士山と共に歩む 自立と創造のまち

はじめに

富士吉田市は、山梨県の南東部、富士山の北麓に位置し、標高650mから900mに市街地が形成された美しい自然に恵まれた高原都市です。古くから、富士山信仰のまちとして栄え、上吉田地区の北口本宮富士浅間神社と、御師の家並みが現在もその面影を伝えていきます。また、秦の始皇帝の家臣、徐福が伝えたと言われる甲斐絹は、明治以降この地域の主たる産業として発展しました。本市はその織物産業を軸として、政治・経済・交通などあらゆる面で富士北麓の中核都市としての役割を果たしてきました。

制施行60年を迎えます。日本のシンボルである富士山のふもとに広がる自然環境は、私たちに与えてくれた恩恵を与えてきています。

富士山からの恵み

本市の象徴である富士山は、国際的にも広く知られる存在であり、毎年多くの観光客が訪れます。また、富士山はその雄大な自然を背景として古来より信仰の対象となり、北口本宮富士浅間神社から富士山頂へと続く吉田口登山道で多くの人が往來し、栄えたことで、数多くの文化財が残されています。この富士山の豊かな自然と文化的な価値を後世に残すため、本市では富士山世界文化遺産候補条例の制定、保存管理計画の策定など、富士山の世界文化遺産への登録に

向けた活動に積極的に取り組んでいます。

また、富士山および本市の魅力と価値を多くの方々知っていただくため、「金鳥居茶屋」の愛称で親しまれる富士吉田市世界遺産インフォメーションセンターを整備し、専門ガイドによる富士山や本市の紹介、観光情報の提供などを行っています。同センターではさらに、お休み処として、富士吉田の名物「吉田のうどん」などの軽食や、喫茶および地場産品の販売も行っています。「吉田のうどん」は、農林水産省「農山漁村の郷土料理百選」にも選ばれ、そのめんの強いコシと、ゴマ、しょうゆ、砂糖などで作った「すりだね」と呼ばれる薬味に特徴があります。ぜひ一度お試しください。また、まちなかには、昭和の面



富士吉田の名物「吉田のうどん」

ここに暮らすひとが満足できるまち

地域の再生は、その地で暮らす人々が誇りを持って住み続けることが大切です。通常、人々が感じ

る幸福感には個人差があり、すべての人が同じ価値観を抱くことはありません。しかし、そこに暮らす人々の生活が充足されなければ、そのまちには魅力や活力が生まれてきません。生涯にわたって、豊かな自然環境を保全し、安全で快適に、そして健康で生きがいを誇りを持って暮らすことができるまちづくりには、さまざまな施策が必要となります。それに当たるものが、都市基盤の拡充整備、企業誘致・企業立地などによる地域の活性化、生涯学習環境の

整備などです。社会基盤の根幹を成す道路整備は、市民の日常生活の利便性の向上に加え、防災上の避難・救援ルートとしての機能はもとより、人や物の交流など経済活動の面において大変重要な役割を担っています。本市では現在、交通体系を一変させ新しい時代を迎えるための基幹的な事業に取り組んでいます。富士河口湖町と本市をトンネルで結ぶ新たなアクセス道路「新倉南線」の整備、慢性的渋滞解消のための国道138号4車線化、中央自動車道富士吉田線へのスマートインターチェンジ設置要望活動など、事業は多岐にわたっています。

また、文化活動・生涯学習・教育など人づくりの拠点施設として、市民会館・図書館の建て替え、富士五湖文化センターの改修工事に着手しています。子どもから高齢者、障害のある方などすべての市民が、安全にかつ、安心してより快適に利用できる施設として、平成23年の完成に向け、整備を進めています。

ともに築く自立と創造のまち

近年、地方自治体では、人口減

少・超高齢社会の到来やグローバル化・高度情報化の進展、地方分権や市町村合併の進行、国による各種制度改革、市民ニーズの多様化・高度化など、時代の潮流への的確な対応が求められています。魅力的で個性豊かな自治体運営を目指すとともに、透明性の確保、効率的で健全な行財政運営を行っていかねばなりません。

て暮らせる地域社会の実現のため、本市は、市民と行政が共に手を取り合い相互に理解と信頼を深めてまいります。そして、「いつでもこのまちで暮らしたい」「このまちで子どもを育てたい」と誰もが感じることができるよう「自立と創造のまち 富士吉田」を築いてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 121.83 km²
- ◆ 人口 5万2511人
- ◆ 世帯数 1万8546世帯

【まちの特徴】富士山の北面に位置し、美しい自然に恵まれた高原都市

【将来都市像】富士の自然と文化を活かし、ともに築く 自立と創造のまち 富士吉田

【特産品】うどん、織物、水

【観光】富士山、富士山リーダーロード



富士吉田市長 堀内 茂



ム館、北口本宮富士浅間神社、富士吉田市歴史民俗博物館、御師旧外川家住宅、新倉山浅間公園、富士バイパスパーク、富士見孝徳公園、富士吉田市立明見湖公園

【イベント】ふじざくら祭り、富士登山競走、市民夏まつり、吉田の火祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



新倉山浅間公園からの富士山

戦国武将が駆け抜けた地・江南 今、主役は市民へ

はじめに

愛知と岐阜の県境を流れる木曾川「江南」とは、中国の長江(揚子江)に木曾川を見立て、その南側に位置することから名付けられました。地形は平たんで、清流木曾川はぐくまれた肥沃な扇状地が広がり、温暖な気候、風土と相まって、災害の少ない暮らしやすい自然環境に恵まれています。戦国時代には、織田信長や豊臣秀吉などの武将たちが天下統一を夢見て青春を過ごした、歴史とロマンあふれるまちです。名古屋市から20km圏に位置する本市は、名鉄犬山線により約20分で結ばれ、名神高速道路の小牧ICや東海北陸自動車道の二宮木曾川ICにも近いことから利便性が高く、ベッドタウンとして都市化が進みました。今日では、人口10万2000

人余りとなり、尾張北部地域の中核都市として着実に成長し、前年に市制施行55周年を迎えました。

豊かな歴史と文化

本市は、戦国武将ゆかりの地であり、信長や秀吉、蜂須賀小六らがこの江南の地を駆け抜け、天下取りの夢へ突き進む様子が、古文書「武功夜話」により伝えられています。また、曼陀羅寺、音楽寺、宮後八幡社など文化財も多く、どこを歩かれても歴史の足跡を感じていただけるよう、観光ポイントをネットワーク化して「ふるさと江南歴史散策道」を整備しています。

中でも、後醍醐天皇の勅願寺として建立され、蜂須賀小六の子で後の徳島藩主・家政ゆかりの曼陀羅寺では、境内の一部を曼陀羅寺公園として整備し、毎年4月下旬から5月

上旬にかけて「江南藤まつり」を開催しています。近年は、花の咲き具合が芳しくなかったことから、平成18年度から3年間かけて藤の再生と公園の改修工事を行いました。おかげさまで、本年度は元気によみがえった藤の花の甘い香りが園内を包み込み、期間中は43万人を超える観光客でにぎわいました。

新たな行政経営のスタート

昨今の社会経済情勢は、景気の下降局面が長期化・深刻化することが懸念され、市の財政は非常に厳しいものとなっております。

このような中、本市では平成16年度から構造改革に取り組み、地方分権の進展、多様化・高度化する市民ニーズに対応するため、平成20年度から「江南市戦略計画」に基づく新たな行政経営をスタートさせ、着実に



木曾川の流れと藤の花をイメージした市マスコットキャラクター「藤花ちゃん」

進めているところです。特に、高い戦略性をもって施策の選択と資源の集中を図りながら、次の3点について重点的に取り組んでいます。

① 市民協働の推進

協働による新しい地域社会を構築するため、市民と市役所のそれぞれの立場や役割、責任を明確にする協働ガイドラインを策定し、市民活動センターなどボランティア、NPOの活動拠点を整備するとともに、参画・協働が必要な分野や業務の情報を提供しています。

また、市民協働グループの立ち上

げや活動を支援し、来年度の自治基本条例(仮称)制定に向け、市民と研究、検討を行っているところです。

② 子育て支援・次世代を担う人材の育成

少子化が進み、次世代を担う子どもたちの健全な成長は、未来への希望あふれる都市づくりの根本であると考えます。前年度には、これまで市民病院の役割を果たしてきた2つの厚生連病院の統合で「江南厚生病院」が誕生し、医師不足などの問題もなく、24時間体制の「こども医療センター」が設立されるなど医療体制が充実しました。

さらに、子どもが安心して医療を受けられるよう乳幼児医療助成を拡充し、長時間の延長保育・休日保育などの新たな保育ニーズに対応す



藤の再生と公園の改修を終えにぎわう「江南藤まつり」

るため、保育園や児童館の運営に指定管理者制度を計画的に導入するなど、保育サービス全体の活性化を図っています。また、小中学校には、少人数指導などきめ細かな指導ができるよう、学校補助教員や特別支援学級等支援職員を配置し、教育体制の充実を図っています。

③ 市民生活に直結する都市基盤整備

市街地整備では、名鉄江南駅のバリアフリー化と併せ、江南駅および布袋駅周辺を整備し、魅力的で快適な市街地形成を推進しています。中でも、布袋駅周辺では、鉄道高架化整備事業の仮駅舎建設工事が始まるなど、本格的な整備に着手しました。

また、国営木曾三川公園内に「フラワーパーク江南」が誕生し、市民の新たな憩いの場として人気を集めています。一方、地球温暖化防止事業として、雨水を利用した「緑のカーテン」づくりの全市的な展開で水循環系の再生を図るなど、環境と市民生活が調和した豊かな生活の場を創造するための整備を重点的に進めています。

おわりに

右肩上がりの成長社会が終わり



江南市長 堀元



プロフィール

- ◆ 面積 30・17km²
- ◆ 人口 10万2017人
- ◆ 世帯数 3万7996世帯

〔将来都市像〕豊かで暮らしやすい生活都市・市民の生活が地域で支えられる「生活都市」

〔まちの特徴〕清流木曾川の南岸に位置し、豊かな自然に恵まれ、名古屋近郊のベッドタウンとして都市化の進むまち

〔特産品〕インテリア織物、越津ネギ、ダイコン、ハクサイ、ポインセチア、地酒

- 〔観光〕曼陀羅寺、すいとびあ江南、フラワーパーク江南、音楽寺、宮後八幡社、北野天神社
- 〔イベント〕江南藤まつり、あじさいまつり、七夕まつり・市民サマーフェスタ、市民まつり、市民花火大会、北野天神社筆まつり

成熟社会を迎えた今、地域の進むべき方向は地域全体で考えて選択することが必要です。そして、それを目標として共有し、地域全体が担い手となって力を発揮できるように市民と市役所が協力し合うことで、本市を郷土として思い、愛着を持てる地域とすることが必要です。また、暮らしやすいベッドタウンを基本に、既存の生活産業の活性化やコミュニ

ティビジネスの創出、ベンチャーの起業などを加えることで、市民がより豊かに暮らすことのできる、自立し活力ある生活都市への転換を図ることが重要と考えています。

私が市長就任以来唱えております「市民が主役の 活力あふれる 自立したまち 江南」を目指し、今後市民との協働によりまちづくりを進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

観光に、産業に、自然の恵みが生きるまち

はじめに

宿毛市は「すくも」と読み、四国の西南端、愛媛県との境界に位置します。温暖な気候と、天然の養殖場といわれるほど魚種の豊富な宿毛湾、四国百名山の一つで、春にはアケボノツツジの群生が見られる篠山、清流松田川と県内唯一の有人離島沖の島と鶴来島を擁する、自然豊かな所です。また大分県佐伯市へのフェリー航路があり、南四国と南九州を結んでいます。離島周辺は磯釣りのメッカとして全国的に知られており、遠く関西や瀬戸内地方から釣り人が年間を通してたくさん訪れます。海の透明度も高くサングや熱帯魚が豊富に見られることから、全国有数のダイビングスポットとなっています。毎年11月中旬から2月中旬にかけて見られる夕日

は、だるまが海から顔を出しているように見えるため、「だるま夕日」と呼ばれ絶好の被写体としてカメラマンに人気があります。

輩出の人物を紹介します。まず早稲田大学建学の母と称せられる小野梓氏、「コマツ」創業者の竹内明太郎氏、バカヤロー解散の吉田茂氏が挙げられます。現在では大相撲の幕内力士豊ノ島関、世界的ソプラニスタの岡本知高氏、現在アースマラソン中の間寛平氏、平成19年度文化功労者・日本芸術院会員の洋画家奥谷博氏など、日本や世界で活躍される著名な方々が本市出身でいらっしゃいます。

宿毛の大きな年中行事としては、3月に菜の花の中を走る「宿毛花へんろマラソン」、沖の島の港から山へ駆け登る「沖の島アドベンチャーラン」、秋の花火が楽しめる「市民

祭宿毛まつり」や、国体施設を生かしたスポーツイベントも多く、スポーツによるまちおこしも一つの指標としています。

観光においては自然の海、山川を生かした体験型を目指しています。ダイビングや釣りのほか、ブリやタイの養殖場での餌やり、チヌ籠漁、魚さばき、郷土料理作り、カヌー遊びなどが体験できます。さらに、四国88カ所巡りで39番札所延光寺から愛媛県40番札所の観自在寺まで、眺望の素晴らしい松尾峠を越えての遍路道ウォークなど、お接待の心をもってお客さまを迎えています。

また、重要港湾宿毛湾港岸壁には年に数回、「飛鳥Ⅱ」や「ばしふいっくびいなす」などの豪華客船が入港し、県外のお客さまを岸壁にて歓迎、歓送をしています。本年度には

港での歓迎の物産販売や、休憩所として、またイベント実施や貨物扱いのできる広さ620㎡の木造平屋建ての交流拠点施設「すくも84マリンターミナル」が完成しました。ここを拠点にクルーズ船の船客は隣市の足摺岬や四万十川観光、本市市内観光に出掛けています。

産業振興・特産品開発

本市の基幹産業は一次産業です。少子高齢化の進む本市の役割は一次産業の振興継続ととらえ、現在、地域のお宝の発掘事業を推進しています。その2、3例を挙げますと、昔からどの家庭にも植えられ、



芋焼酎「すくもの芋」「ざまに」とポン酢「直七の里」

何げなく魚料理などに搾ったり、すしに使用していた酢ミカン「直七」(スダチでもカボスでもユズでもない)をボン酢、生酢、かつおたたきのタレ、ドレッシングに変身させました。結構好評でユズボン酢をしのご日が来ると確信しています。特にボン酢は都市部の方々に好評で、「味がまるやかで酸味が残り、さわやか」との意見を頂いています。

次にイモ。どこでもできるサツマイモを焼酎に変身させるため、免許の無い当初は製造委託をしていましたが、2年がかりで製造免許を得た純粋宿毛産の芋焼酎を平成21年6月に完成させ、販売をしています。

漁業の方では鮮魚を出すことが主体でしたが、加工の面に力を入

れ、これまでのイリコなどの干物主体から、キビナゴのバラ冷凍品、タイヤブリのフイル真空パック、すり身など、新鮮さが長持ちする、魚の加工品を製造しています。

このほか新鮮青果品としては、ブントタン、コナツ、プロッコリー、オクラ、ネギなどのほか、5年前、地球温暖化を逆手に取れば南洋果物だつてできるはずとして植えていただいたマンゴーが、平成21年夏初めて実りました。地質も合っているというところで大変美味にできあがっていました。このように少しずつこの一次産業を継続させていこうと思っています。

市民とまちづくり

南海地震の確率が高いとされる今日、学校や保育所の耐震、建て替えの時期になっています。しかし、統合を含めた建て替えとなるため、また地域住民の意思や財政的な面もあり、一気呵成には進みません。そんな中、いずこの田舎まちと同様、商店街はシャッター通り化しています。本市では、その再生と、市民が安心して集えるまちづくりによりやく着手したところであります。「公園の中にある

まち」水の豊かなまちをコンセプトに、他人任せでなく自分たちで考えるまちづくりに取り組んでいます。

現在、市民の方々による種々の部会にて意見提案を出していただき、そのまとめを中央で活躍している本市出身者にアドバイスしていただき、最終計画案の策定を進

めています。ハード、ソフト含めて財政的には厳しいときですが、職員も市民。常に行政改革を推進する気持ちで、「やる気で知恵出し一工夫」を合言葉に、職員一丸となって市民と協働のより良い宿毛づくりに励んでまいりたいと思っています。また、官民の役割分担にも取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 286・15 km²
- ◆ 人口 2万3224人
- ◆ 世帯数 1万182世帯

〔将来都市像〕人が輝き、自然がほほえむ元気都市

〔まちの特徴〕大規模な山々と広大な宿毛湾が特徴です。特に宿毛湾はリアス式海岸で水深があり、開発の無限の可能性を持っています。さらに国立公園の一部、沖の島は観光地としても注目されています。

〔特産品〕直七、芋焼酎、ブントタン、コナツ、キビナゴほか魚介類、サング、寒蘭



宿毛市長 中西清二



〔観光〕延光寺、宿毛歴史館、成陽島、篠山、出井岬穴、笹平キャンプ場、浜田の泊屋、沖の島の石垣

〔イベント〕観光びらき、宿毛花へんろマラソン、沖の島(うどの浜)海びらき、笹平キャンプ場びらき、傘鉾(2年に1度奇数年)、野菜祭り(ヤーサイ)、市民祭宿毛まつり、寒蘭の里とさ宿毛展示大会

※面積は国土院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



宿毛湾に沈む「だるま夕日」

炭坑節のふるさと 田川

はじめに

田川市は、福岡県の北東部に位置し、福岡市から東に35km、北九州市から南に25kmという、2つの政令指定都市へ通勤可能な恵まれた位置にあります。東西および南の三方を山に囲まれた田川盆地の中心都市で、面積は約55km²、人口は約5万1000人です。市の中心部を南北に貫流する彦山川、中元寺川に挟まれた地域に、JR田川伊田、田川後藤寺両駅を中心とした商店街が形成され、これを取り巻く形で住宅街が並び、さらに田園地帯へとつながっています。

日本の近代化を支えた石炭の都

明治以降、急速に高まった石炭の需要は、ここ田川の地を激変さ



日本の近代化を支えた二本煙突と竪坑槽

せました。国内最大の出炭量を誇った筑豊炭田の中でも主要炭鉱であった三井田川鉱業所をはじめ、多くの炭鉱が操業し、全国各地から仕事を求めて人々が移り住んできました。昭和18年の市制施行後も人口は増え続け、昭和30年代には10万人を超え、日本の近代化を支える「炭都」として発展しました。

その後、昭和35年から始まるエネルギー革命により炭鉱は次々に姿を消し、昭和45年までに市内からすべての炭鉱がなくなりました。しかし現在、旧三井田川鉱業所伊田坑跡地を整備した石炭記念公園では、当時の貴重な産業遺産である「二本煙突」「竪坑槽」が每晚ライトアップされ、往時を忍ばせる荘厳な姿を夜空に浮かび上がらせています。

にぎわうまつり

平成18年に始まった「TAGAWA コールマイン・フェスティバル」炭坑節まつりは、毎年11月第1日曜日とその前日の2日間をかけ盛大に開催されます。本市が「月が出た出た月が出た」で有名な「炭坑節」の発祥の地であることにちなみ、本市の文化と歴史を全

交通網の発展

平成21年3月に、本市と飯塚市を結ぶ筑豊烏尾トンネルが開通し、国道201号飯塚庄内田川バイパスが全線開通しました。これにより、本市から福岡市までこれまでより20分短縮され約50分で結ばれるようになりました。また、トンネル開通に合わせ、福岡市と



風治八幡宮川渡り神幸祭

の直通特急バスも新設され、ますます便利になっています。

また平成元年に、旧国鉄伊田線、田川線、糸田線を引き継ぎ、第三セクターとして開業した平成筑豊鉄道では、平成21年12月に新型車両3両を導入しました。中でも「炭都物語号」は、黒いダイヤと呼ばれる石炭と同じ黒い車体にかつての筑豊の風景を描いたラッピングを施し、車内には炭鉱労働者の生活を描いた故山本作兵衛氏の複製画を展示するなど、観光だけでなく郷土の歴史と文化を学習

できる車両となっています。

市民参加のまちづくり

現在、ボランティアによる市内の清掃活動や、田川市総合グラウンドのり面のイロハモミジ5000本の植樹活動など、市民参加による美しいまちづくりが活発に展開されています。

また、平成21年12月、市内の福岡県立大学に、ボランティア活動を通して地域社会と連携しながら社会貢献を目指す学生を支援するために、「社会貢献・ボランティア支援センター」が設置されました。同大学の約1200人の学生のうちボランティア経験者は約7割を占めており、社会に貢献できる人材育成の支援拠点として大いに期待されています。

市民参加のまちづくり

私は、市長就任以来、本市に活力を取り戻し、地域の再生を目指すため、「温故創新・自主自立」を基本に「人が豊かに輝くまち田川」のまちづくりを進めてきました。このまちづくりの推進力として、「行財政改革」「産業構造改革」「教育改革」「福祉・医療改革」「環

境改革」を連携させた「ネットワーク5つの改革」を掲げ、市政の健全化、活性化に日々全力を注いでいます。今後さらなる改革を進め、夢と魅力あふれるまちづくりに取り組んでまいります。

おわりに

現在、市民参画による第5次総合計画の策定作業を行っております。平成23年度から始まるこの計

画では、まず地方分権の推進による地方自治体の行財政運営の在り方を踏まえ、時代の潮流や本市を取り巻く社会経済情勢を的確にとらえます。その上で、本市のまちづくりに対する基本理念、ならびに中長期的な視野に立った将来像など、本市が進むべき道筋を示すとともに、その将来像を具現化するための実効性のある計画を策定したいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 54・52km²
- ◆ 人口 5万1146人
- ◆ 世帯数 2万3945世帯

〔将来都市像〕人が豊かに輝くまち田川

〔まちの特徴〕豊かな自然に恵まれ、古くから栄えた歴史、受け継がれてきた独自の文化が薫るまち

〔特産品〕チロルチョココレート、田川まん十、ようかん「黒ダイヤ」「白ダイヤ」、ピュアパプリカ、パプリカونس、アスター、トルコギキョウ



田川市長 伊藤信勝



金川牛、セメント、しっくい
 〔観光〕石炭記念公園、石炭・歴史博物館、風治八幡宮、春日神社、田川市美術館、中村美術館、丸山公園、成道寺公園、ロマンスが丘、セストノ古墳
 〔イベント〕TAGAWA コールマイン・フェスティバル、炭坑節まつり、風治八幡宮川渡り神幸祭、春日神社岩戸神楽、伊加利人形芝居

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。